



広報

Taketa Public Relations

11

2011

広報たけた

白水ダム周辺整備計画「鳴田駐車場・トイレ」が 2011年度グッドデザイン賞を受賞!



センスが光る案内板



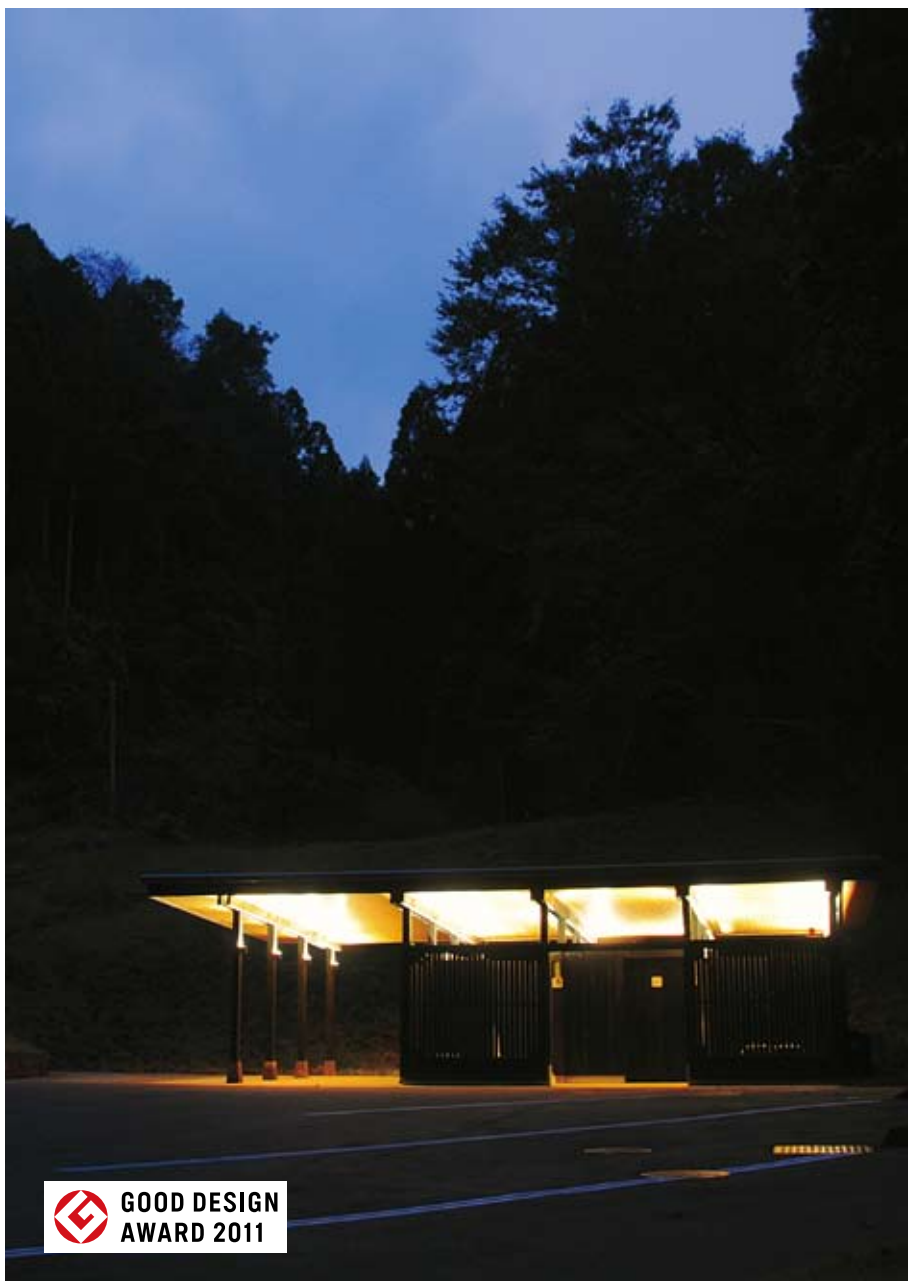
森の貴婦人・白水ダム



香る農村文化



絆で飾る落成式



山間部の景観と美しく調和する鳴田駐車場・トイレ(荻町鳴田)

日本初の農業土木遺産が

再び光を放つ

白水ダム周辺 整備計画に弾み

白水ダムは、農業水利施設群の一つで、国の重要文化財に登録されている現役の農業用ため池施設です。その構造物の造形美・流線美に魅了され、訪問者が後を絶ちません。鳴田駐車場およびトイレは、白水ダム周辺整備計画の一環として、竹田の農村文化を伝え、育む場所とし

て整備したものです。

日本唯一の総合的デザインプロモーション機関である公益財団法人日本デザイン振興会(東京都港区)は、10月3日に「2011年度グッドデザイン賞」の受賞結果を発表しました。その結果、白水ダム周辺整備

備計画「鳴田駐車場・トイレ」が2011年度グッドデザイン賞を受賞しました。

○審査委員の評価

『ランドスケープとは言えない、とても小さな公共の駐車場とトイレの計画である。とても丁寧なこの小さなプロジェクトに対応し、細部まで気配りがされていることがわかる。この小さな仕事周辺風景を決定づけている。日本の多くの風景は建築が破壊しているが、このように風景を律する建築はこれから数多く出現してほしい。高く評価されるべき作品である。』



受賞対象名：駐車場およびトイレ
[白水ダム周辺整備計画 鳴田駐車場・トイレ]
事業主体名：竹田市
分類：土木・環境整備・地域開発・都市デザイン
受賞企業：有限会社イー・エー・ユー(東京都)、川添善行・都市・建築設計研究所(東京都)
プロデューサー：竹田市
ディレクター：中井祐(東京大学教授/デザイン監修)
デザイナー：崎谷浩一郎、山田裕貴(有限会社 イー・エー・ユー)、川添善行、関野らん(川添善行・都市・建築設計研究所)、
設計：橋爪征雄(有限会社 橋爪一級建築士事務所)

受賞おめでとうございます

■川添善行・都市・建築設計研究所 代表 川添善行氏

「白水ダムは、誰もが認める過去の素晴らしい遺産です。竹田に、そのような素晴らしい遺産が存在することは、これまでの時間の豊かさを示しています。そして、今回、白水ダムに隣接する新しい施設が受賞したことは、過去の遺産を引き継ぎつつ、竹田に未来への強靱な意思があることが証明されたのだと思います。今回の設計に関わらせていただいたことを大変光栄に感じています」

■有限会社イー・エー・ユー 代表 崎谷浩一郎氏

「白水ダム周辺整備計画を含めた一連の取り組みに一定の評価を頂いたことは大変光栄なことです。グッドデザイン賞は、社会全体を豊かにする「よいデザイン」に与えられる賞ですが、豊かさとは、決して便利さや快適さだけではない、竹田のまちや農村の風景、そして人と接していると、特にそう感じます。今回の受賞が竹田らしい豊かさへつながっていくよう、皆さんとともに育んでいければと思っています」



←受賞報告に訪れた川添善行・都市・建築設計研究所、有限会社イー・エー・ユーほか東京大学のみなさん

今回の受賞にあたり、関係者を代表して喜びのコメントをお聞きました。

一生忘れられない仕事に

鳴田駐車場トイレ設計者

橋爪 征雄さん

(橋爪一級建築士事務所相談役)

「最初と最後は一生忘れられない仕事です」

この春、自身の建築設計事務所を息子に引き継ぎ、相談役に就任した橋爪征雄さん。

30年で約500棟以上の設計を手掛け、社長としての『最後の仕事』となった鳴田駐車場トイレの設計は、グッドデザイン賞という榮譽を授かりました。



↑「施主の意向を活かすことを心掛けて」と話す橋爪征雄さん

一流には一流を

就任して間もなく、内藤廣先生監修の『グラウンドスケープ宣言』という本を手にし、中井祐という東大の先生が白水ダムのことを絶賛していることを知ってからストーリーは始まりました。(写真左が内藤先生、右が中井先生)

飛行機でこの本を読み終えるや、当時の秘書に中井先生の東京大学大学院にある研究室を調べてもらい直行したことを昨日のように思い出しています。

足早に研究室に向かいながら、私の頭に浮かび上がったのは「一流には一流を」。

そして、まさに神の配剤のごとくに、中井先生の研究室には、監修された大御所、内藤廣先生もおられました。

2009年6月2日のことでした。

裏表紙に書き込んだメモが鮮やかに残っています。

「わたしたちには、世界を驚かす覚悟がある」と。

竹田市長 首藤勝次



「お客さんの中には技術者も多いようだ。トイレも気を配って、きれいに使ってくれているよ」

山の動物たちの鳴き声が響く静かな森林に囲まれた駐車場のトイレ。常に清潔さが保たれているのには、理由があります。

それは、鳴田駐車場トイレの管理人で、地権者でもある阿南惟博さんが足しげく駐車場に通い、周辺の草刈や清掃、日ごとご夫婦でトイレ清掃をしてくれているからなのです。

ひと昔前、ゲームやテレビ等の『娯楽』のない時代。水遊びや魚釣り。地域にまだたくさんの子どもの達がいって、白水ダム周辺の川や湖が唯一の遊び場でした。

「管理を引き受けた以上は、責任がある」と話す阿南さんは、地元愛にあふれる眼差しで、日々、見守っているのです。

「皆が喜んでくれるのは嬉しいね」

鳴田駐車場トイレ管理人・地権者 阿南 惟博さん

自分が生まれ育った街は、最初からそこにあり盲点みたいなものだと思います。生活できる最小限の行動を毎日していると自分の街がすぐくつまらなさと感じてしまいます。竹田にはたった2回訪れただけですが、7日間歩き通しました。私はその7日間で竹田の魅力をたくさん見つけました。本来ならばそれをここに書くべきなのですが、私はこの魅力をぜひ竹田の街の人々に気付いてもらいたいです。たまには寄り道をして帰るのはいかがでしょうか。竹田の街に魅力があることは私たちが保証します。きつと新しい魅力に出会えると思います。それがきつと今後の竹田をより良い街にしていきたいと思います。最後にまた竹田で皆様に会えることを楽しみにしております。これからよろしくお願ひします。

竹田雑感

〜景観研究の立場から〜

東京大学景観研究室修士課程1年 野口大基

23

城下町再生・農村文化研究のため竹田を訪れた東大生からのメッセージ

はじめまして。私はこの春に北海道大学から東京大学の大学院に入学した野口大基と申します。景観の勉強を本格的に始めたのは今年からになり、まだまだ勉強不足であることは痛感しておりますが、竹田がより良い街になるようにたくさん汗をかこうと思えますので、ここで会えたのも何かの縁だと思いいこの文章で名前だけでも記憶の片隅に置いておいてください。

札幌のことを少し書きます。みなさんもご存知の通り札幌は観光が盛んな街です。私はせっかく札幌に住むなら四年間勉強と観光に勤しもうと心に決めていました。卒業をして考えてみると少しだけ観光の比重が多かったかなと反省しています。ある時札幌の友人においしいスープカレー屋はどこにあるかと尋ねると、その友人はスープカレーを食べたことがありませんでした。その友人だけでなく札幌出身のほとんどの友人が、札幌観光の醍醐味であると思っていたスープカレーを食べたことがなく、藻岩山に上ったこと

65

年目の瀧廉太郎記念音楽祭

音楽は、 希望の光

念願の第1位に輝いた椿翔太(松柏学院倉吉北高等学校3年)さん
課題曲「荒城の月」自由曲「Di Provenza il mar, il suol」
歌劇「椿姫」より「プロヴァンスの海と陸」
(伴奏者：中橋 芳恵)

つばき しょう た 椿 翔太さん(松柏学院倉吉北高等学校3年)が第1位に!

第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール

第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール本選が10月16日、竹田市文化会館で行われました。今年は全国から32校(32名)が出場。前日15日の予選を突破した11名の出場者は、瀧廉太郎作曲の課題曲と自由曲を、思いを込めて独唱しました。

そして、見事今年の第1位に輝いたのは、椿翔太さん(松柏学院倉吉北高等学校3年)。

第1位の椿さんには、文部科学大臣賞やライブツィヒ賞はじめ、後援団体各賞のほか、瀧廉太郎賞としてウィーン留学助成金60万円が贈られました。

また、開催65回を記念して、瀧廉太郎作曲のピアノ曲「憾」の楽譜のレプリカが上位3名に贈られました。(結果は以下のとおり)

入賞された皆さん、おめでとうございます。今後のさらなる活躍を期待しています。

『人を感動させることのできる声楽家になりたい』

(椿翔太さんの喜びの声)

「(実力を出し切れなかったという思いのままで審査結果発表を待っていたので) 嬉しかった、しかないですね。応援してくれた家族をはじめ、お世話になった先生方、友人、地域の方にすべてに感謝したいと思います。

ウィーン留学では日本人のクセというものを見直して、それを自分のものになるよう勉強します。今後はもっと基礎を勉強し、レベルアップをして、人を感動させることのできる声楽家になりたい。

1年の時は本選に進めず、2年の時に優良賞をいただき、3年で結果を出せました。成長をさせてもらった場所です。ここが僕の原点です」



◇第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール入賞者(敬称略)

第1位	松柏学院倉吉北高等学校(鳥取県)	椿 翔太
第2位	常盤木学園高等学校(姉妹都市仙台市)	佐藤 千里
第3位	東京音楽大学付属高等学校(東京都)	澤地 豪
	聖和女子学院高等学校(長崎県)	縄田 舞奈
優秀賞	和歌山県立田辺高等学校(和歌山県)	田代 華菜
	京都市立京都堀川音楽高等学校(京都府)	井上 大聞
	島根県立浜田高等学校(島根県)	深野 敦史
優良賞	梅光女学院高等学校(山口県)	本多 唯那
	愛光高等学校(愛媛県)	木原 理菜
	鹿児島県立松陽高等学校(鹿児島県)	西羽田成美
	高松第一高等学校(香川県)	田井 友香

※優秀賞、優良賞は本選歌唱順

地域ぐるみで創る音楽祭

若き音楽家の登龍門として、全国の高校生ナンバーワンを決める「第65回記念大会」の本選当日。県外からの応援団を含め、例年になく、多くの観客が会場に訪れていました。



↑感動のフィナーレは出場者と会場が一緒になって「荒城の月」を大合唱。指揮は審査員の三林輝夫先生



←栄えある65回記念大会の予選開始を前に、32校出場者全員と主催者、審査員らで記念撮影

2011年10月14日、「第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」に出場する各都道府県代表の高校生たちが、日本一を目指すためこの山間のまちに集いました。

初日の夕刻、大ホールにてコンクール開会式が執り行われた後、予選出場順番を決める抽選会がステージ上で行われました。予選の歌唱順は、運命を左右すると云われています。

抽選会終了後、1階の大会議室へ移動し、歓迎レセプションが行われました。自己紹介や予選の意気込みなどを一人ずつ語ります。そこは全国から集まった同世代の出場者たちと交流を深める場となっているのです。レセプションの締めは恒例の「荒城の月」全員合唱。決戦前夜、会場は終始和やかな雰囲気

に包まれていました。10月15日、全国32校(32名)の出場者たちは、早朝から一人あたり5分間のステージ練習を行うことができます。コンクール

「瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」の会場では、ピアノを準備した部屋を用意し、全員に一定の練習時間を割り当てます。公平を保つため、この時間以外に練習室に入ることができません。それでも空き時間を利用してまだ練習をしたい、という高校生を陰で支えている市内在任の甲斐サチ子さん。

自宅には、音楽教諭だった故き夫・甲斐刃矢男さんのピアノがあります。

「竹田の音楽行事のために、ピアノを必要な人には使わせて」。生前、夫・刃矢男さんから遺された言葉です。

コンクール事務局からの幹事はできませんが、口コミや楽器店の紹介等により、毎年この時期になると出場する高校生が家を訪ねてきます。

事前にピアノの調律を済ませ、自宅で待機をしながら過ごします。お陰で会場に足を

人をつなぐ故・音楽教諭のピアノの響き



↑訪ねてきた高校生の練習を見守る甲斐サチ子さん(写真左)

運ばなくなってしまうのは、嬉しい誤算だそうです。

以来、10年以上もコンクール出場者たちの民間の練習場所として、自宅を開放されています。ピアノが縁を取り持ち、コンクール出場者との交流は未長く続いているようです。やがて増えていく思い出という名の宝。

「寂しくならないように：こうなることを主人も分かっていたのかしら」

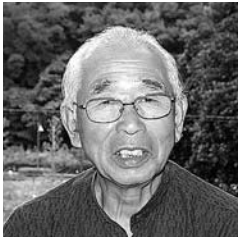
甲斐サチ子さんはたくさん

家族のみなさんにも召しあがっていたきました。

「どっからきたん？がんばんなあえ！」

婦人会のおばちゃんとお出場の高校生たちとの会話。この世

■声楽コンクールの伴奏ピアノを26年間見守る



調律師
佐々木福一さん

予選当日の早朝6時半頃。誰もいない大ホールのステージに、調律師佐々木福一さんの姿があった。伴奏者に気持ちよく弾いてもらえるようにと、思いを込めながら調律に万全を尽くす。印象に残るのは、第49回大会(平成7年)優勝の藤井雄介さん(大分県出身)。思わず拳に力が入ったという。「高校生は好きなことに純粋ですね」今年の舞台裏。佐々木さんは演奏のピアノの音に耳を傾けていた。

■ロビーで癒しのカフェが大好評



瀧廉太郎記念音楽祭
実行委員

副田 公子さん
(コール竹田メリーズ代表)

瀧廉太郎記念音楽祭実行委員会は、全国から訪れる音楽祭関係者をもてなそうと、昨年から無料喫茶コーナーを会場ロビーに復活させた。名水で作るコーヒーや地元銘菓などを提供。コーラスグループに所属している実行委員の副田公子さんは、「少しでもリラックスして歌えるように一息ついてもらえたら嬉しい」と話している。そこは、コンクールの緊迫した雰囲気と和らげ、出場者たちの交流スペースとしても賑わっていた。

■出場者をお腹から支える定番料理「だんご汁」



竹田市地域婦人団体連合
会代表

佐藤美智子さん

コンクールに集中してもらおうという配慮から、音楽祭関係者には地元婦人会のみなさんによる手料理がふるまわれている。喉に優しい料理を心がけており、地元の食材をたっぷり使ったメインの『だんご汁』は大好評。「高校生の礼儀正しいあいさつが気持ちいい。残さず食べてくれるのが嬉しいです」と話す、地域婦人団体連合会代表の佐藤美智子さん。温かい手料理とおばちゃんたちの優しい笑顔は、独唱者の心も満たしている。

■宿泊所ロビーにて心をひとつに「荒城の月」合唱

大会が3日間に亘るため、食事や睡眠など出場者のコンディションを支える宿泊所。なかでも「割烹御宿 一竹」の女将、後藤美保さんは、献立に竹田らしさを工夫したり、時には観光地のガイドを買って出るなど、竹田のPRを懸命に取り組む。



↑ホテルロビーで「荒城の月」を合唱

昨年、同じホテルに全国各地から宿泊している高校生たちがロビーに集まり、誰からともなく「荒城の月」を合唱。従業員らも巻き込んで、音楽で心がひとつになった瞬間だったという。後藤さんは望んでいる。「地元住民とのふれあう機会が増えれば、きっと竹田は忘れられない場所になると思う」。



【写真説明】①予選歌唱順の抽選会 ②和やかな雰囲気の中、歓迎レセプション ③大好評の無料喫茶コーナー ④心をこめて「だんご汁」を調理中 ⑤「ライブツィヒ賞」を優勝者に手渡す坂田史男ライブツィヒ観光局長 ⑥伊藤京子審査委員長の講評

代を越えたふれあいも他の音楽コンクールにはない地域交流の1コマなのです。午後1時、予選開始。途中2回の休憩を入れて、32名が歌い終わる頃には午後5時を過ぎています。予選の集計が終わり、11名の本選出場者が決定。近年になく実力が伯仲しているという声も。当コンクールの場合、課題曲と自由曲を当日にどれだけ実力を出し切って歌えるか、どうかなのです。大ホールに残ったのは、名前を呼ばれた本選出場者のみ。すぐに翌日の本選歌唱順を決める。抽選会が行われるため、惜しくも予選を通過できなかった高校生たちがロビーにあふれています。予選落ちのショックでうずくまって泣いている者、宿泊をキャンセルして早々と帰郷を決めた者……。このコンクールにすべてを賭けてきた高校生たちの長き戦いが終わる瞬間でもありました。10月16日、本選終了。表彰式の前に、伊藤京子審査委員長が次のように講評を述べました。「私たちは日本人なのです。日本の美しい歌、メロディーに誇りを持って精進し、歌い継がなくてはなりません。歌、音楽は人間の心、人生の根源を示しています。喜びや悲しみも、人間として受けとめられるような道を進んでほしい」。瀧廉太郎が幼少時代を過ごした城下町。地域の人々とともに創る、世界にひとつだけの、特別な音楽祭。次世代の若き声楽家たちが、未来に翔(と)きつかけとなるような「声楽コンクール」。この地ではこれからも瀧廉太郎の偉大なる功績を讃え、子どもたちが豊かに音楽を学べる場所を目指して歩み続けます。

「瀧廉太郎の偉業」 顕彰への熱意と努力、それは希望の光だった

『音楽祭』誕生の軌跡

戦後間もない昭和22年（1947年）、瀧廉太郎を顕彰する記念の音楽祭が、竹田の地に誕生しました。

記念すべき第1回目の「楽聖瀧廉太郎四五周年記念音楽會」として開催されましたが、これは当時大分県社会教育課に嘱託として働いていた、作詞家の故・妻城良夫氏の力を抜きにして語ることとはできません。

<p>指揮 土井晩翠先生</p> <p>〔第一部〕</p> <p>1. マンドリン合奏 初府マンドリン協会 A. 荒城の月 藤島一郎 B. ドアの鐘 イノホトキア作</p> <p>2. 男 唄 藤島千代子 A. 荒城の月 藤島千代子 B. ドアの鐘 イノホトキア作</p> <p>3. 女 唄 合 唱 大分第一合唱団 A. 新 娘 邊 藤島千代子 B. からたちの花 藤島千代子 C. 川 藤島千代子</p> <p>4. ピアノ協奏 高野浩二 A. ヌスレト 高野浩二 B. 六つの子 高野浩二</p> <p>5. 男 唄 藤田ゆき子 A. 開けよ花の歌 藤田ゆき子 B. 三つの鐘 藤田ゆき子 C. 三つの鐘 藤田ゆき子</p> <p>6. 男 唄 松本治子 A. アレキサンダー 松本治子 B. 松島香 松本治子 C. お菓子と松 松本治子</p> <p>〔第二部〕</p> <p>1. ピアノ協奏 大坪由美子 A. ヌスレト 大坪由美子 B. 六つの子 大坪由美子</p> <p>2. 男 唄 竹内水子 A. 荒城の月 竹内水子 B. ドアの鐘 竹内水子</p> <p>3. 終 楽 曲 大坪由美子 A. ヌスレト 大坪由美子 B. 六つの子 大坪由美子</p>	<p>4. 男 唄 室 藤 子 A. 中 國 子 空 山 藤 子 B. 荒 城 の 月 山 藤 子</p> <p>5. ピアノ協奏 藤 井 真 子 A. ヌスレト 藤 井 真 子 B. 六つの子 藤 井 真 子</p> <p>6. 混 合 唱 大分放送合唱團 A. 荒城の月 大分放送合唱團 B. 花 大分放送合唱團 C. ナツメイデー 大分放送合唱團</p> <p>〔第三部〕</p> <p>1. ヴァイオリンとピアノ二重奏 木村 雅 郎 A. ヌスレト 木村 雅 郎 B. 六つの子 木村 雅 郎</p> <p>2. 男 唄 竹内水子 A. 荒城の月 竹内水子 B. ドアの鐘 竹内水子</p> <p>3. 男 唄 全島武雄 A. あ ら い そ 全島武雄 B. センターズ 全島武雄 C. さ す ら い 全島武雄</p> <p>4. ピアノ協奏 中西一正 A. ヌスレト 中西一正 B. ヌスレト 中西一正 C. 終 楽 曲 中西一正</p> <p>5. 終 楽 曲 竹内水子 A. ヌスレト 竹内水子 B. 六つの子 竹内水子</p> <p>〔第四部〕</p> <p>男 唄 世 藤 美 子 自 來 水 定</p>
--	--



↑ 昭和22年(1947)、瀧廉太郎の命日にあたる6月29日、岡城跡にて開催された『楽聖瀧廉太郎追悼45周年記念音楽會』のプログラム。前日には別府市で行われ、両日とも「荒城の月」の作詞者土井晩翠先生が挨拶。バラエティに富んだ構成となっている

← 当時、岡城跡内にあった「瀧廉太郎記念音楽堂」

竹田市出身の妻城氏は郷里の縁のある楽聖瀧廉太郎の偉業を顕彰すべきだと思っていました。また、戦後の日本は文化的な新たな国を作っていく必要があるとも考えていました。そして「瀧廉太郎記念音楽祭」の企画に着手し、自ら推進し、開催に漕ぎ着けたのでした。妻城さんの遺した私記には「敗戦のショックに戸惑う青少年たちに、夢と希望を与え、又一般市民の音楽文化の昂揚興隆にも役立つのではないだろうか」と記されています。

以後、毎年秋に竹田の地で、廉太郎が何度も足を運んだ岡城跡で開催されるようになりますが、ここにもうひとつ大きな力が働いていました。当時、社会的に有名だった文化団体「火の会」のメンバーが国指定史跡岡城跡に「瀧廉太郎記念音楽堂」を建設しようと立ちあがるのです。史蹟名勝天然記念物保存法

敗戦の人の心を鎮めるのは文化遺産の顕彰

— 音楽祭の開催のために奔走した浅原健三氏 —

浅原健三氏は、福岡生まれの昭和時代の政治家。戦争末期、別府に住んでいた浅原氏が東条英機暗殺計画の容疑をかけられ、その逃避行先が竹田の地だったのです。

「…敗戦によって打ちひしがれた竹田町民を慰めようと昭和22年6月、第1回滝音楽祭が岡城跡で開催された。この大会を推奨し資金を提供したのが健三であったなど誰も知る由も無い」（竹田の陰の豪傑たち／平野耕治・著より）

竹田に身を隠して終戦を迎えた浅原氏は、竹田に恩を感じ、音楽祭の開催のために奔走をされたそうです。



浅原健三氏→



↑ 第11回瀧廉太郎記念音楽祭の記念写真。来賓の中に廉太郎実妹・安部とみさんの姿がある(2列目1番右)



↑第28回は、竹田高校の体育館ステージで開催された

瀧廉太郎と竹田とのつながりを感じる

浅野 喜代子

←浅野喜代子さんは、震災に遭った姉妹都市山台市の佐藤千里さんを励まそうと、瀧廉太郎関連の書籍を贈る。佐藤さんは準優勝に輝いた。



が開催された記録が残っていない。高い志を持つ者やグループがソフト面とハード面の双方にいたことが、音楽祭の定着と継続な開催をもたらしたといえるでしょう。

その後、音楽堂は昭和48年に朽ちてしまったということですが、青空の下で、岡城にある音楽堂で高らかに歌った当時の年少女たちの記憶は決して消えることはないのです。

音楽祭はその後、大分県立竹田高等学校の体育館、竹田市文化会館へと会場を移しながら、現在も開催されています。その歴史を振り返ると、市の財政難により開催が非常に困難を極めた時期もありました。大水害で町が被災し、会場が使用できなくなる年もありました。

しかし、その都度、様々な形で関わっている市民と関係者が知恵を出し合い、その熱意と努力で乗り越えてきたのです。戦後間もない頃、音楽祭を立ち上げようとした人がいました。その後、一体どれだけの多くの人がこの音楽祭に関わってきたことでしょうか。「瀧廉太郎記念音楽祭」はこれまで65年間、一度も途切れることなく続いています。

首藤市長は今年の声楽コンクール閉会式のあいさつの中で、会場にお招きした瀧廉太郎実妹の孫、スミさんの孫・浅野喜代子さんの言葉を紹介しました。「竹田の地でこの先100年でも200年でも長く続けてほしい。」

瀧廉太郎大おじが逝かれて、今年(平成23年)は109回忌。そして生誕132年になります。ただ単に109年、132年と申しますが、長い長い道程だと思っています。

132年の内の2年余りを竹田で過ごした事、の不思議さ。考えてみますと、12才から14才の半ば迄、多感な少年時代だったのだと思います。山水の中から音を捉える事が出来る。又、水の面から音を聴く事が出来る。その時、すでに何かを感じていたのではないかと。思いを馳せます。

最近、瀧家が当時住んでいた庭を再現した写真を見ました。

現在の記念館からは感じられない水の音が、そして風のそよぎも感じられる写真です。又多感な少年の頃の大おじが庭でコマ廻し、又学友といろんな遊びに興じ歓声をあげたであろう庭、諸々の声が聞こえて来る様な庭と私は思います。東京、横浜に住みバイオリン、手風琴、

ハーモニカと、音に馴れしたんだ大おじだったと思いますが、竹田に住んだ2年余り、「美しい自然の中で聴く山水の音。そして水の面から音を聴く事が出来る事」。大おじが残された言葉です。大おじは心の中に竹田があったのだと思います。そして又、音に対する何かが育まれて行ったのではないかと思います。作曲家・小松耕輔先生の書かれた文章の中に、次の様な言葉がありました。瀧は専門家の作曲家につかず、多くは自主学习をもって、あれだけの名曲を後世に残した事を思うと、ますます瀧は本当の天才であったことを思わずにはいられない。もし

天が彼に歳をかしたならば、最初の偉大なる我が日本の作曲家として、一層大いなる足跡を残したことであろう。大成すべく、彼は余りにも早くこの世を去ったのであったと……。

そして15才の時、すでに自分の進むべき道は、わかっていたのだと思います。厳格な曾祖父に音楽の勉強をしないと申し出た事、15才で音楽の勉強の為に東京に行かれた事、そして大おじの希望を理解した曾祖父は素晴らしいと思えます。音楽学校時代には、テニスをクラスメートと

力でも途切れることなく続いてい

されていたとか。ラケットを振っていた大おじの姿を思い浮かべますと、何故かホッとします。大おじも青春があったのかな、と嬉しくなります。大おじの或る一面では、活発だったのかも知れないと……。

曾祖母、姉妹弟達には、とても優しくなつたと何っております。

大おじが残した散歩の曲も、素晴らしいと思えます。軽やかでスキップをしたくなる様な曲。素晴らしい大おじを誇りに思います。山水のすぐれた竹田、そして豊かな心を持った竹田の方々を、素晴らしいと思えます。竹田から、第2、第3の音楽家が生まれます様、祈っております。もつすでに、白石哲也さん、倉原佳子さんが活躍されて居られる様、承っております。素晴らしい事だと思えます。竹田市の益々のご繁栄とご発展を心よりお祈り致します。

浅野喜代子(あきのきよこ) 瀧廉太郎の妹・スミの孫。1928年生まれ。20年に亘り、大分市の民生委員を務める。瀧廉太郎記念館名誉運営委員。大分市在住

「瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」審査員としての20年間を振り返って

感動を生み出す『若々しい歌声の競演』

瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール審査員

三林さんばやし

輝夫てるお

平成4年、春の或る日、芸大音楽科教員室の電話が鳴った。丁度お昼時でもありその場に居合せた私が出ると、福岡教育大学の安永武一郎先生からであった。

九州竹田の瀧廉太郎記念音楽祭西部日本高校独唱コンクールが今年から全日本高等学校声楽コンクールとして新しくスタートする、については審査員として私に参加してくれないかということであった。

私自身声楽を正式に習い始めた高校生の頃が懐かしく思い出され、若い人達のコンクールならとも二もなくお引き受けした。

それから20年近くに亘り、アキレス腱切断のアクシデントで欠席せざるを得なかった第52回を除き、皆勤させていただいている。

初めての竹田、それは秋色濃い岡城址に登ることから始まった。コンクールの

打ち合せ前のひととき、僅かな時間を惜しんで事務局の方が案内して下さった時の感激は忘れられない。

また或る年はあちこちに湧き出す名水を訪ねたり、ぼんぼりの灯る夜の岡城址にも出会ったりと毎年何うたびに竹田の魅力にどんどん引き込まれていった。

審査員の先生方は皆さん異口同音におっしゃる。「緑深い山ふところの街竹田に来ると、何故か心癒されて落ちつくね」と。

極めつきは通称ラムネ温泉、長湯の温泉郷だ。夕食後お誘いを受けて車で真っ暗な山道を走ること30分余、忽然と現れる夢の様な里。水かと思う程ぬるいお湯につかると肌にまとわりつく何万粒の真珠——。そして湯上がりの爽やかなこと。すっきりラムネ温泉のとりこになつてしまった。

岡城址を初めて訪れた折、売店のスピーカーから聴こえてきたのは『荒城の



↑当コンクールを厳正に審査する今大会の審査員
(左から伊藤京子先生、三林輝夫先生、蔵田裕行先生、伊原直子先生、渡部千枝先生)

月』、そして歌声は大部分が生んだ名バリトン、今は亡き立川清登さんだった。昭和23年の瀧廉太郎記念音楽祭で歌っておられてコンクールとも縁が深い。私も『メリー・ウイドウ』などオペレッタの舞台でご一緒していてファンでもあったの



三林 輝夫 Teruo Sanbayashi

1961年東京藝術大学音楽学部音楽科卒業。1963年同校専攻科修了。木下保、渡邊高之助、古沢淑子の各氏に師事。数多くのオペラ、オペレッタ、創作歌劇に活躍する他、フランス歌曲のスペシャリストとして十数回にわたるリサイタルで高い評価を得る。日本歌曲の演奏でも、その明瞭なディレクションと深い表現には定評がある。

1998年には新国立劇場公演「罪と罰」（原嘉壽子作曲）をはじめ、二期会公演「オフマン物語」、「カルメン」など公演監督として多くのオペラを成功させるなど、プロデュース面においても活躍。近年では研究会・研修会講師など活動の範囲は幅広い。

現在、東京藝術大学名誉教授、(財)東京二期会理事・幹事、二期会オペラ研修所所長。

で、この岡城址での『荒城の月』には胸を突かれた。

名曲『荒城の月』は西洋音楽のドレミの音組織を使って作曲された我が国芸術歌曲の第一号として広く認識されている。

私はこの歌をうたう時、23才という若さで世を去った天才瀧廉太郎が、若し長命で人生を全うしていたらどんな素晴らしい曲を沢山遺していただろうかという思いに駆られる。

『荒城の月』の原曲はア・カペラ（無伴奏）で書かれているが、のちに山田耕筰の編曲によるピアノ伴奏が付けられた。メロディは「はなのえん」の半音の箇所が全音に改められている。しかしこの編曲によって原曲の良さが損なわれることはなく、広く日本中の人々に愛され

る不朽の名作となった。

全日本高等学校声楽コンクールは、高校生の若々しい歌声の競演である。時にはまだ未熟な外国語の言葉さばきや、発展途上の発音が聞かれる中で、音大生にも負けない様な人材も出てくるので、私は楽しみだ。

第1日目の予選では全国から30余校の代表が課題曲と自由曲を一曲ずつ披露する。課題曲は瀧廉太郎の歌曲作品から、『荒城の月』『納涼』『荒磯』『秋の月』から選ばれ、自由曲は各自最も得意な曲を歌う。

その結果10人前後が選ばれ、2日目の本選に臨むことになる。近年の傾向は、男子が増え、それぞれに素質に恵まれた良い声を聴かせてくれることである。『声変り』は男子にとって短期間に急激に訪れるのに対し、女子には比較的ならか

に移行し、はつきりした自覚症状がないことも多い。音高も余り変化しないのに対し、男子はこの間までキンキンしたボーイソプラノの声で、1オクターブも下がっておじさん声になったりする。そのギャップの分声楽の勉強に苦労することになるわけだ。

本選の審査はなかなか大変である。将来性を感じさせる良い声に、練り上げられた音楽、しかし私達にはそれを楽しんでいるわけにはいかない。コンクールの宿命として、点数で評価しなくてはならないのだ。素晴らしい素材、才能の発見に喜びを感じる反面、僅差の判定に悩む苦しみを与えられることもある。

振り返って見ればうれしい悩みではあるが――。

コンクールの運営、発展に尽くされた故安永武一郎先生は、明るく温厚、気遣いの細やかな紳士であった。大学の長として厳しい面もお持ちだったのであるが、私にはお優しい面しか思い出すことが出来ない。

湯布院に温泉付きの別荘を作ったから是非にと誘って下さったが、果たせず心残りである。

きっと天国で、大好きなお酒を飲みながら、煙草をくゆらして全日本高等学校声楽コンクールの発展を見護って下さっているにちがいない。

瀧廉太郎記念音楽祭の「未来」を考える

「瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクール」の運営諮問委員の先生方に、感想や提言をいただきました。

「第65回瀧廉太郎記念音楽祭」に寄せて

小長 久子

昭和22年岡城址から始まったこのコンクール。私が郷里宇佐市から高校の独唱者女生徒を一人連れて参加したのは戦後間もない頃であった。假設舞台、お客は地面にゴザなどを敷き座って聴いた。

大分工業に赴任した後、竹田市の文化会館に昭和62、63年木村俊光先生、平成3年莊智世恵先生を迎え、コンクールの終了後、地下の練習室で希望者の個人指導を行っていた。素晴らしい指導であった事は忘れられない。

その後、三林輝夫先生、伊藤京子先生、朝倉蒼生先生、田原祥一郎先生方と審査をご一緒した。大分から県立芸術文化短期大学の阿部容子先生といつも一緒だった。平成6年には県立芸術文化短期大学学長の安永武一郎先生をはじめ同短大・大分大学の先生もご一緒し、この時は佐藤しのぶ様の特別演奏もあり、盛会だったのを想い出す。

……(中略)竹田市にはじまり、九州、西日本、全日本と発展してきたこのコンクールも65回に上り、育った多くの音楽家は世界に翔たいている。竹田市には唯一、瀧廉太郎の住居が記念館として残されている。

……(中略)今年40年ぶりに瀧廉太郎作曲「卒業式歌」が発見されて、彼の作曲した「水のゆくえ」が橋糸重であることが分かった。彼も千の風になって喜んでるに違いない。

先般110年間、瀧廉太郎の父吉弘の遺志(廉太郎実妹安部とみ夫人が書き残されている)により大分市萬壽寺にあった瀧一

「未来」を考える

家の墓、安部とみ夫人をはじめ現在まで廉太郎実妹の孫、浅野喜代子夫人が守り続けてこられた墓が日出町龍泉寺に移された事は一市民としても残念な事である。

最後に一流の審査員を中央よりお迎えするこのコンクール。直々個人へのご指導があると出場者にとって、最上の喜びとなるのでは、と思う。

瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクールに寄せて

土谷 正公

私が音楽の道を志した高校時代、ひと月に一度ぐらいの間隔ではるばると岡城址の瀧廉太郎像に触れに行っていました。大自然の中、じつとそのそばに居ると、何故か音楽への希望が湧くのです。

音楽大学を卒業して高等学校の音楽教師になってから竹田高校に勤務した時もあり、また在職中は何人かの生徒を大分県代表として声楽コンクールに引率したこともあります。現在は、大分県音楽協会々長としてコンクール運営委員の立場にあります。

竹田高校在任中、生徒は音楽が好きで、合唱、吹奏楽、オーケストラと音楽活動が盛んで充実していました。その日の勤務を終えて駅まで街中を歩いていると、どこかの家から尺八や箏の音曲が流れてきて、その音が脳裏に残っています。

今、市民の皆さんは、瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクールをおして「音楽のまちづくり」に取り組んでおられるとのこと。思えば、あの時の音楽好きな生徒たち、あの時の尺八や箏の音曲、そのような環境がまちづくりに脈々と繋がれている

のだな、と感じるばかりです。

コンクール出場者は、将来を見つめる多感な高校生です。彼らはきつとこのまちなあたりの豊かな環境を全身に浴びて一杯の独唱をすることでしょう。コンクールがもつ厳しさと、支える暖かさをもつて、瀧廉太郎記念全日本高等学校音楽コンクールが滞りなく行われるように願っています。

歴代上位入賞者のコンサートと支援会員制度を

松本 正

瀧廉太郎記念音楽祭と全日本高等学校音楽コンクール」の運営に関わって20年近くになる。運営委員会での様々な議論の積み重ねと、地域の方々の支援により、運営は着実に軌道に乗り、今では地域に根ざしたイベントとして定着している。今後どのような方向に発展していけばよいのだろうか。

65回記念にあたって、2点、意見を述べてみたい。

1点目は、音楽祭の中核行事である声楽コンクールについてである。このコンクールの最大の特徴は、その教育的性格にある。このコンクールは、未来の音楽家を目指して勉強している高校生を対象としている。

コンクールへの出場は、彼らに、同世代の仲間との交流や、互いに競い合うことによる自らの音楽的力量のステップアップを可能とする。

また、このコンクールでは、前年度上位入賞者の発表の場がある。これは、入賞者がその後の成長を披露する場であるとともに、その年の新たな出場者にとっては学習の刺激を得る場でもある。こうした教育的性格の延長線上として、歴代上位入賞者によるコンサートを提案したい。前年度の上

位入賞者の発表が、彼らの1年間の成長を見守る場であるとするなら、歴代上位入賞者によるコンサートは、大きなスパンで、たとえば5年あるいは10年程度を区切りとして、彼らの成長を見守る場である。出場者に寄り添うコンクールであることを、これまで以上に打ち出すのである。

2点目は、集客についてである。このコンクールは、音楽によるまちづくりの一環としての位置づけを持つ。当然のことながら、様々な面で市民参加が必要となる。実施体制も整い、運営面でも十分に成果を挙げている。しかしながら、市民が支援して、コンクールに足を運んでくれるという点で、今ひとつの工夫が必要だと考える。そこで、提案したいのは、記念音楽祭あるいはコンクールを支援してくれる会員を募るとのことである。これは、かつて、音楽祭50周年記念のフォーラムにおいて触れたことである。記念音楽祭の趣旨に賛同して、応援してくれる人に会員になってもらう。そして、年会費を払ってもらう。そういう会員をさしあたっては100名を目指す。支援会員を募る大きなメリットは、単なる動員とは違った聴衆を期待できるという点である。会員には当然、音楽祭やコンクールの案内が送付される。自らが会員となつて、何がしかの会費を払っていると、いうことであれば、意識も違ってくる。音楽祭に足を運ぶこともでてくる。音楽祭では、コンクールとは別に、演奏会がしばしば開催される。演奏会が有料の場合には、会員には特典として入場料の補助や入場無料を実施すればよい。

記念音楽祭にしろ、コンクールにしろ、スケジュール的に規模の拡大は難しい。内容の充実、質的な向上をいかに図っていくかということである。



コンクール出身者の活躍は、竹田市民の「喜び」です

〈質問事項〉 ①出身高校名 ②出場回数(年度) ③現在所属(学校名、勤務先等) ④近況報告 ⑤声楽コンクール(音楽祭)の思い出、またはご意見、ご感想をお書きください。

藤井 雄介

- ①大分県立大分舞鶴高等学校
- ②第49回(1995)
- ③東京芸術大学および国立音楽大学研究員
- ④広島大学教育学部音楽科卒業後、東京芸術大学声楽科に進み、昨年度大学院博士後期課程を修了いたしました。現在はおもに宗教曲のソリストやアンサンブルメンバーとして演奏活動しております。



- ⑤早いもので貴音楽祭に出ささせていただいてからももう16年が経ちました。高校生生の時分にそのような恵まれた環境で歌わせていただけたことは本当に有難く、音楽家としてのスタートを切らせてくれたコンクールであったと思っております。上京してからの音楽仲間にもこのコンクール出場経験のある人も多く、当時の話に花が咲くこともあります。

いまだに思い出すのは、地元の方が作ってくださった炊き込みご飯のおにぎりやだんご汁(豚汁?)が本当に美味しく、力をいただきました。

貴音楽祭の益々のご発展をお祈りいたしております。

足立 志穂

- ①兵庫県立西宮高等学校
- ②第50回(1996) ③フリー
- ④友達とコンサートを行ったり、ソロやコーラスなど都内を中心に活動しています。東日本大震災復興支援チャリティコンサートを恩師の呼びかけにより4月に都内の教会で、6月に兵庫県の地元で行い、8月に10数名の仲間と気仙沼市にボランティアへ行ってきました。



- ⑤65回目のコンクール開催おめでとうございます。初めて竹田へ伺ってから15年になるのですね。。

前日にレセプションがあったり、コンクールの合間にだご汁をいただいたり、皆様の協力のもと、とてもアットホームなコンクールだったという印象が強く残っています。その後、数回竹田市へ伺う機会があり、市内観光や荒城の月をいただいたり、楽しい時間を過ごさせていただきました。

吉川 友理

- ①長崎県立長崎西高等学校 ②第52回(1998)、第53回(1999)
- ③ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院(予定)
- ④2005年に東京芸術大学を卒業した後、ロータリー財団の奨学金を頂き、イタリアのラティエーナ・オットリーノ・レスピーギ音楽院の専科(Biennio Specializzazione)でオペラを勉強し、2011年3月に最高得点で卒業いたしました。

また、今秋からはローマ・サンタ・チェチーリア音楽院の歌曲専科コースで研鑽を積む予定です。現在ローマ在住で、ローマを中心にコンサート活動などを行っています。

- ⑤高校生の当時様々な声楽コンクールに挑戦しましたが、この音楽祭はあらゆる意味で他のコンクールとは一線を画していました。竹田市の皆様全員が一丸となって歓迎してくださり、市民のお母さんたちが作ってくださった「だご汁」の味は今でもよく覚えています。

また、コンクール前日に開催された歓迎会も大事な思い出です。日本中から集まった同じ志を持つ友人との出会いは一高校生だった私にとってとても新鮮で刺激になり、本番にも程よい緊張感で臨めました。

第1位を頂いた第53回では出場順が一番で緊張するかと思いきや、舞台上に足を踏み入れた時会場内の空気が体の中に浸透していくような感覚があり、真っ白いキャンパスに初めて色をのせる時の様なすがすがしい心地よさを今でも覚えています。そこで出会った友人たちとはすぐに打ち解け、同じ釜の「だご汁」を食べた仲間として、大学やイタリアでも再会し今も連絡を取り合う仲です。副賞として音楽の都ウィーンへ17歳という若さで短期留学をする機会を授かり、音楽面だけでなく一人の人間形成の上でも大変貴重な体験をさせて頂きました。数年後に音楽祭に参加し、同じくウィーンへ短期留学させて頂いた妹の吉川友貴も同じ思い出であることに違いありません。いつか姉妹揃って私たちの大切な思い出の一部である竹田市をもう一度訪れたいと思います。

今後もこの音楽祭が若い芽をすくすくと育てる肥しであり続けるよう、益々のご発展をお祈りいたします。

間瀬田 紗代

- ①宮崎女子高等学校
- ②第53回(1999)、第54回(2000)
- ③東京藝術大学卒。登録している団体等はございません
- ④現在東京に在住。地元宮崎や日本全国さまざまな場所でもオペラに出演し、ソロコンサート等をしております。昨年までは絵本作家プロデューサーにより、埼玉を中心にイベント等で歌のお姉さんとして歌っておりました。



- ゆるキャラとのイベントや、ラジオ番組やテレビに出演し、最近ではクラシックに限らず、洋楽、jazz、クロスオーバーな曲も歌い幅広い分野で活動し、ブライダル・パーティー等でも歌うお仕事をしています。その傍ら小学生の合唱指導、声楽のレッスンにも力を入れております。

- ⑤タキレンの思い出は私のこれまでの人生の中で一番大切な思い出です。私は高校2年生と3年生の時に宮崎代表で出場させて頂きました。その後も受賞者演奏会に出演させて頂いたり、音楽祭、そして竹田市のみなさまのお心のあたたかさにとっても感動致しました。コンクールに向けて多くの方に支えられ素晴らしい賞を戴く事ができました。

また、一緒に出場していた仲間たちとは大学で再会し、今でも繋がりがあり、とても刺激になっております。自分を高められたこの2年間は私にとっていつも心の支えになっております。若い歌手たちが竹田から誕生して巣立っていく姿をみなさんと共に、これからも応援して行けたらと思います。これからも瀧廉太郎記念音楽祭の発展を心よりお祈り申し上げます。

たち かわ きよ こ
立川 清子

- ①佐賀県立佐賀西高等学校
- ②第54回(2000)、第56回(2002)
- ③東京藝術大学大学院博士課程休学、新国立劇場オペラ研究所13期生在籍



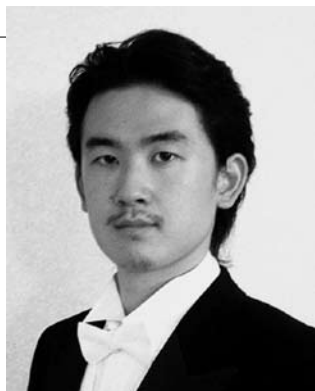
④高校卒業して、東京藝術大学音楽学部声楽科に進学。同大学大学院修士課程を修了し、博士課程に合格しましたが、現在休学し、新国立劇場オペラ研修所13期生として、オペラの研修を積んでいます。大学では、ソロのコースで自分を磨いておりましたが、今はオペラに関わる多様な勉強をしています。

⑤中学校3年間合唱部で活動し、高校1年生の時、初めて独唱をして本コンクールにおいて第3位となれたことが、自分の道を決めるきっかけとなっています。本当にありがとうございます。今の自分があるのも本コンクールに向けて頑張ったおかげです。

また、竹田市の皆様の温かい応援のおかげです。感謝でいっぱいです。初心を忘れずに今できることを精一杯励んでいきたいと思っています。

あさ き やす お
朝来 泰生

- ①京都市立音楽高等学校
- ②第57回(2003)
- ③東京藝術大学音楽学部声楽専攻卒業。現在、フリーの声楽家として関東圏を中心に活動



④現在、関東圏を中心に声楽家として活動を行っています。今年度(2011)の10月から国際ロータリー財団の奨学生としてイタリアのミラノに留学致します。ミラノはオペラの殿堂スカラ座もあり、オペラを勉強する上でよい環境です。

また、実際にイタリアの地で生活することによってしか学ぶことができない、文化やイタリア人の感覚を少しでも吸収できればと思っています。

⑤音楽祭の思い出は、何よりスタッフの方々の暖かさや細やかな心遣いです。私が経験した他のコンクールと違い、おもてなしの料理をはじめ、コンクール自体を市民の皆さんの手作りで作っておられ大変感銘を受けました。コンクールではそのおかげで、とてもリラックスして舞台にのぞむことが出来ましたし、その充実感はいまだに忘れずに残っています。このコンクールがこれからもより素晴らしいものとして続きますよう心より願っています。

たけ した ひろ み
竹下 裕美

- ①鹿児島県立松陽高等学校
- ②第58回(2004) ③東京藝術大学修士課程オペラ科3年

④お陰様で今年修士3年目を迎えることができました。より専門的に勉強する場なので、毎日が刺激的で、私みたいに「のほほ〜ん」としている人間は、ついていくだけでも必死で、息切れがしていますが、息切れするのは太っているせいだと思います。

ありがたいことに、宗教音楽のソリストやオペラで役を頂ける機会にも恵まれ、ご指導くださる先生方やこんな私を支えてくださるすべての方、そして家族のお陰だと心から感謝

しております。

先日の藝大オペラ定期『Cosi fan tutte』では、第59回優勝者の加藤のぞみさんと姉妹役で歌わせていただきました。

タキレンつながりで昔からよくお話ししたりして、妹のように思っていたので、まさか本当に姉妹役ができるなんて夢にも思わず、もの凄く嬉しかったです。その夢のような日から一転し、今論文に追われる日々です。

⑤タキレンに出させていってから7年。未だに一緒に出場した仲間や先輩方、後輩たちとはつきあいがあります。

普段、学校にいる時にもコンクールの話になったり、大分の方々께서作ってくださったご飯がどれだけ美味しかった…など大盛りあがりです。こんな温かいコンクールは世界中どこをさがしてもなく、タキレンが一番だと思います。私にとって大分と鹿児島両方が故郷です。このご恩をいつか少しでもお返しできるよう、これからも精進していきます。



か とう
加藤 のぞみ

- ①神奈川県立小田原高等学校
- ②第59回(2005)
- ③東京藝術大学大学院修士課程オペラ専攻2年



↑写真右が加藤さん(左:竹下さん)

④上野の東京藝術大学に通い始めて今年で6年目になりました。月曜日から金曜日まで声楽実技の他に、バレエ、演技、舞台語発音、オペラの稽古等、充実した毎日を送っています。

10月にはずっと夢だったオペラ公演にキャストとして出演させていただきました。大きな舞台で、衣装やメイクをしてオーケストラをバックに歌わせていただけたことは本当に幸せでした。これからは留学やコンクール、視野を広げて色々なことに挑戦しながら勉強を続けていきたいです。

⑤大学の先輩、同級生、後輩には『タキレン』の出場者がたくさんいて、今でも度々思い出話に盛り上がります。平成16年度優勝者の竹下裕美さんはオペラ科の一年先輩で、先ほど申し上げましたオペラ公演では姉妹役をやらせていただきました！竹田の豊かな自然、人の温かさ、結果発表の瞬間、ウィーン短期留学という思わぬご褒美、今でも目を閉じると鮮明に思い出します。このような素晴らしい経験をさせていただいた竹田市の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました！！いつか、また竹田市文化会館で、歌うことができたら…と思っています。



↑ずっと夢だったオペラ公演にキャストとして出演した加藤のぞみさん

「Photograph by TAKE-O」

き の ひろ たか
紀野洋孝

- ①大分県立芸術緑丘高等学校
- ②第59回(2005)、第60回(2006)
- ③東京藝術大学
- ④現在、東京藝術大学在学中。



↑たきれん仲間(左から兵庫出身：池内響、長崎出身：吉川友貴、(本人)、京都出身：村松稔之)

数年後の留学に向けて準備をはじめています。ふるさと大分から上京して、あっという間に5年がたちました。このコンクールをきっかけに知り合った、たくさんの友達や先輩、後輩と共に音楽を勉強中です。

⑤音楽祭へは高校2年と3年の時、それから大学1年の短期留学の報告演奏会で3回参加させていただきました。その後も帰省した時はよく竹田に行きます。僕のパワースポットです！竹田の文化会館に行く度にコンクール当日、自分の順番が来るまで文化会館の周りを散歩しながら歌ったことを昨日のここのように思い出します。

また、大学で再会した「たきれん仲間」と、竹田の方々に親切にして頂いたことや、美味しすぎてひたすら食べた「とりてん」、「だんご汁」などを思い出しながら語り合うなかで、アットホームで暖かな竹田で感じた皆さんの心使い、味、澄んだ空気、「竹田」が僕のみならず、参加者みんなの心に色濃く残っているのを大分出身者として誇りに思います。「たきれん」は僕にとって無くてはならない大切な思い出です。

なか がわ えみり
中川恵美里

- ①ルーテル学院高等学校
- ②第60回(2006)、第61回(2007)
- ③東京藝術大学音楽学部声楽科3年在学中
- ④2010年12月に飯森範親指揮、東京交響楽団並びにニューフィルハーモニーオーケストラ千葉による第九演奏会において、ソプラノソリストを務める。今年8月には、フェスタサマーミュージア2011の飯森範親指揮、東京交響楽団公演にソリストとして出演。



⑤私は高校から真剣に声楽を学び始めましたが、その中でこのコンクールに出場した事は、決して忘れることの出来ない大切な思い出です。

『タキレン』に出場して初めて出会った、全国の志を同じくする仲間。悔しくて、嬉しくて、たくさん流した涙。

竹田の雄大な自然の中で、ひたすら音楽に、そして自分に向き合った3日間。3年経った今、私がこうして大学で音楽を学んでいるのも、あの頃タキレンで多くの経験と感動をもらったお陰だと、本当に感謝しています。私の心のふるさと、大好きな竹田の人と町。

これからも、この伝統あるコンクールの継続と繁栄を、心よりお祈りしております。

まつ ばら
松原みなみ

- ①大阪府立夕陽丘高等学校
- ②第62回(2008)
- ③東京藝術大学
- ④大学生活も後半に入り、オペラの実習も増えてきました。



ただ立って歌うだけではなく、演技をすることに四苦八苦しています。また、少しずつ演奏活動もしています。特に、ライトハウスでのコンサートは定例になってきました。

今は今秋にあるコンクールに向けて頑張っています。

⑤65周年おめでとうございます。竹田の皆様に関心して頂いたことを思い出すと、今でも心が温かくなります。ただの歌好きだった高校生が生涯歌っていこうと、プロになりたい、もっともっと勉強したいと感じ、決意したのは竹田の皆様のおかげです。これからもこの素晴らしい音楽祭が盛況でありますよう、心から祈っております。

の まち とも ひろ
野町知弘

- ①高知県立高知丸の内高等学校
- ②第62回(2008)、第63回(2009)
- ③東京藝術大学
- ④学生生活を恙無く送っております。



⑤瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールに2回出場させていただいた中で、他のコンクールでは交わらない他の出場者の方々と交流やレベルの高い審査など、どれもが今の私の糧となっています。これからもこのすばらしいコンクールが末永く続いていきますことを心から願っています。

おお ひら ます ひろ
大平倍大

- ①鹿児島県立甲南高等学校
- ②第64回(2010)
- ③東京藝術大学音楽学部声楽科
- ④現在、東京藝術大学で声楽を勉強しています。8月にウィーン短期留学に行き、とても素晴らしい経験になりました。



⑤音楽祭の思い出竹田市に着いたと同時にとても手厚い歓迎をしてくださったのを覚えています。また、地元の方々が作ってくださった美味しい郷土料理も印象深かったです。



今年(第65回)の、ウィーン留学報告演奏会ステージで1年間の成果を市民に披露する大平さん。

偉大なる音楽家の息遣い



↑「憾」の楽譜(レプリカ)制作を承諾してくださった後藤先生

瀧廉太郎は東京で生まれ、父の転勤で竹田に赴き、多感少年時代を過ごしました。東京音楽学校に入学後、「荒城の月」をはじめ数々の名曲を発表。留学先のドイツ・ライプツィヒで病に倒れ、志半ばで帰国。ピアノ曲「憾」が最後の曲となり、故郷大分で23歳と10か月の若さでその生涯を終えました。

明治期最高の作曲家が遺した直筆の楽譜の写し(瀧廉太郎記念館運営委員後藤誠子さん所蔵)が瀧廉太郎記念館に展示されています。芸術家や音楽家の直筆の文字からは、作品に込めた思いや息遣いまでも語りかけてくるように伝わってくるはず。今回特別に後藤先生の承諾のもと、「憾」の楽譜(レプリカ)を制作し、今年節目の記念大会となった「第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」上位4名(3位が2人)に贈られました。

この声楽コンクールから将来世界に向けて翔(はば)いてほしい。みなさんのご活躍を期待しております。



↑「憾」(うらみ/ドイツ語: Bedauernswert*)は、日本の作曲家瀧廉太郎の数少ないピアノ曲の一つ。死の数か月前(1903年)に作られた作品。

ドイツ語「Bedauernswert」の和訳のとおり、「もっと生きたい」「もっと音楽を学びたい」という「心残り」の思いが聞こえてくるようです。「憾」は、大分市での病気療養中に作曲された絶筆で、彼はこの年の6月29日に死去しました。

この手稿譜は、『Bedauernswert 憾』の標題と『Den 14 Februar 1903』の日付が入った自筆譜のレプリカ。曲の最後が終止線ではないため、未完成ということが窺えます。

※今日のスペルは「bedauernswert」と表記されます。

音楽姉妹都市仙台市トピックス



「荒城の月」を高らかに歌う、木町通小学校の児童たち

音楽姉妹都市・仙台が生んだ詩人 土井晩翠を偲んで

「荒城の月」市民大合唱

「荒城の月」の作詩者である土井晩翠は姉妹都市、宮城県仙台市出身です。昭和27年に満80歳で亡くなった命日にあたる10月19日、仙台市では詩人・土井晩翠を偲ぶ記念行事が市内各所で開催されました。

青葉山天守台「荒城の月」詩碑前では『杜の都にひびけ「荒城の月」市民大合唱』が行われ、木町通小学校(土井晩翠の母校)の児童による「荒城の月」合唱のほか、市民から公募した音楽グループらの演奏が行われました。

(写真提供/竹田市仙台事務所副所長 島谷留美子)

世界に発信する「音楽のまち竹田」

当時の「瀧廉太郎記念音楽祭」のプログラムによれば、独唱コンクールやピアノ演奏会なども含まれており、市民をあげて盛大に開催されていました。

現在、「瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」がメインとなり、「音楽祭」の名称は記念大会の時のみに使われています。

しかし、声楽コンクール全日本大会20年目を迎えた今年、

年々レベルの高くなる「コンクール」を一目観ようと市民の観客も次第に増えてきました。

竹田市では今後も、コンクールを音楽のまちづくりの「核」として捉え、心豊かな子どもたちを育み、さらなる文化振興の推進に取り組んでまいります。

世界に向けて、音楽を愛する人を生み出していくまちをめざして――

瀧廉太郎記念音楽祭第65回記念協賛事業

宮谷理香

Rika Miyatani

ピアノリサイタル



↑「みなさんとのご縁と熱い思いを『今日』という日に繋いでいただいたことに本当に感謝しながら、温かい気持ちで演奏することができた」と宮谷さん

『この感動の体験を忘れない』

3月11日、約2万人の命を奪った「東日本大震災」が発生。この「宮谷理香ピアノリサイタル」は今年3月20日に開催予定でしたが、竹田市ではすべての主催行事の中止を余儀なくされました。

今回のリサイタルでは子どもたちがプロのピアニストと連弾を体験するコーナーが企画されていましたが、震災はその夢も奪ってしまいました。しかし、震災から数か月が経過し、復興の兆しが微かに見え始めた頃。「毎日練習を重ね、本番を楽しみにしていた子どもたちの夢を叶えたい」「被災地の方に音楽で思いを伝えたい」。こうした地元の熱意がにわかにか高まり、ピアニスト宮谷理香さんのご厚意により、早い時期にリサイタル公演の実現となったのです。

迎えた10月8日土曜日、久住公民館くじゅうサンホール。宮谷さんは竹田市ゆかりの瀧廉太郎のピアノ曲「メヌエット」と



↑プロのピアニストとの連弾が実現

「憾」を最初に演奏し、約7か月延期された幕を開けてくれました。

竹田の子どもたちと連弾のコーナー。ハンガリー舞曲第一番を弾いた甲斐良紀さん（久住中2年）は、演奏が終わり開口一番、

「貴重な体験ができて、楽しかった」と、ほっとした表情をみせました。前日のリハーサルでは緊張していた子どもたちも、

本番は感性豊かな演奏を披露しました。

伸び盛りの子どもたち4人とっては、きつと忘れられない経験となったことでしょう。

後半はリストとショパンの名曲が並ぶ豪華なプログラム。宮谷さんの心に響く演奏に、聴衆の拍手はいつまでも鳴りやむことはありませんでした。

世界にここだけしかない

竹田ならではの演奏会

ピアニスト 宮谷 理香



→宮谷さん（写真中央）と、連弾をした古嶋阿古さん（大分大学付属中2年）、渡辺鈴さん（久住小4年）、佐藤里沙さん（久住中2年）、甲斐良紀くん（久住中2年）（写真左から）

「子どもたち連弾について」すぐく可能性を秘めていると思えました。1日でびっくりするぐらい変わる。スポンジのように吸収して、次の日、自分なりに成長させてくるのはとても大変なことなので。のびのびとした環境で育ったことに「伸びしろ」があり、みんなと弾いていてすごく楽しかったです。豊かな自然に生まれ、瀧廉太郎が育った土壌は、宝そのもの。故郷に対する愛情をいつまでも持ち続けてほしいですね」

桜町商店街をみんな 元気にしていこう

トマトを活用した商店街活性化事業が「街なかにはぎわいプラン」最優秀賞を受賞



トマトパウンドケーキづくりに励む「高原ステーション荻」のみなさん〔衛藤アヤ子さん(70歳)、吉良ミネ子さん(75歳)、本田信代さん(64歳)〕

「ふるさとの味として、たくさんの方に美味しく食べてもらいたい」と話す代表の衛藤アヤ子さん。活動支援の補助金(100万円以内)は業務用オーブンの購入等に充てられ、これから効率よくケーキづくりができるかと会員たちは喜んでいました。

トマトのような真っ赤な情熱パワーが活気を起こし、桜町商店街に新たなにはぎわいが生まれることを期待しています。

ケーキは、訪れた観光客に好評です。

JR豊後萩駅構内で、商工会青年部・女性部の有志が運営する『高原ステーション荻』で作られる完熟トマトを活かしたパウンドケーキは、訪れた観光客に好評です。

内容は、空き店舗を活用したトマト料理提供店の運営や交流朝市、体験イベント等を盛り込んだ、商店街と豊かな農産物が一体となつてにはぎわいを創出する企画となっています。

今回、プランを取りまとめた九州アルプス商工会荻支所経営指導員の佐藤裕幸さんは「西日本有数の夏秋トマトの産地である萩町の地域性が高く評価され、さらなる発展も期待していただきました」と話しています。

商店街の魅力や集中力を向上する斬新で効果的なアイデアに補助金を出す「大分県街なかにはぎわいプラン推進事業」の審査会が9月11日に大分市で行われ、九州アルプス商工会の『トマトを活用した商店街活性化事業』(萩町桜町商店街)が一般枠で最優秀賞に輝きました。

元気はつらつ! いきいき交流 豊の国ねりんピック開催

高齢者同士の交流や、生きがいと健康づくりなどを目的とした高齢者のスポーツと文化の祭典「第22回豊の国ねりんピック」が9月24日、25日、10月7日にわたって大分市で開かれました。

竹田市からも多くの選手が参加し活躍され、日頃の練習の成果を披露していました。主な成績は以下のとおりです。

【ペタンク交流大会】 団体・第3位

【3世代交流健康マラソン大会】

高齢者男子70歳代以上3.4km・準優勝 熊谷明さん(15分52秒)

【ミニバレーボール大会】 IIパート・準優勝

【3世代交流グラウンド・ゴルフ大会】

団体・優勝 個人(20歳未満)・優勝 山口優史さん/個人(20~59歳)・準優勝 松田尚也さん/個人(60歳以上)・準優勝 工藤雄一さん



↑3世代交流グラウンド・ゴルフのみなさん



9月22日、「2011年度少年の主張県大会」が日田市民文化会館パトリア日田で開催され、県内中学校2,086人の応募の中から、原稿審査を通過した10名が発表しました。

最優秀賞に輝いたのは、大神ひかるさんの『かけがいのないもの』。

家族との会話を疎ましく感じる年頃だった一年前の大神ひかるさん。

そして、運命の3月11日。「辛く苦しい報道が続きました。その中でも一番印象に残っているのは、津波によってバラバラになった家族を必死になって探している人たちの姿でした。ほとんどの人が、『失って気づくことが多すぎる。』と、語っていました。中には家族と再会できた人もいました。お互いに駆け寄り涙を流し、生きててくれてよかった。と、抱き合っていました。私は知らず知らずのうちに涙を流していました。一人でも多くの方が、離れ離れになった家族と再会できますように、と本気で願わずにはいられませんでした。学校でも、生徒会の役員としてすぐに行動を起こし、集めた物資を公共機関に届けました。そんな風に行動していたものの、自分の父親が震災のレスキューにいくとしたら…『もし、地震が来たら…死んでしまうかも』と、怖くなってしまいます。」

東日本大震災を通じて感じたことや、その結果、自ら気づいた家族への思いを自分なりの素直な言葉で表現。そして、被災者の言葉「失って気づくことが多すぎる」をしっかりと心に受けとめ、失う前に『家族はかけがいのないもの』ということに気づいたのでした。

かけがえのない家族に感謝しています

2011年度「少年の主張大分県大会」で『かけがえのないもの』が最優秀賞に輝いた

おん が
大神ひかる

(竹田市立都野中学校3年)

大神さんにとって、この県体会で嬉しいことがもうひとつありました。日田市内の中学生6人が選出する『共感賞』を獲得し、同年代の感性に響いたことです。

作品は全国大会の出場候補者として、九州ブロックのテープ審査に進みます。

「わがままな自分を見つめ直すことができました。家族の絆はかけがえのないもの。いつも感謝の気持ちを持って過ごしていきたいと思えます」と話す大神さん。今後のさらなる活躍を期待しています。

※竹田市からは他にも久住中1年の佐野みなみさんが優秀賞、久住中3年の井上由貴さんと直入中3年の菊地琴美さんが優良賞に選ばれました。



↑防災ヘリに負傷者を収容

←バスケット担架に乗せた負傷者をクレーンで救助

大規模災害時の対応の能力を高め、大分DMAT、防災航空隊、消防本部の防災機関が相互連携強化を図ることを目的とした、竹田市消防署総合訓練が10月3日、SPA直入(直入町上田北)で行われました。

訓練はオートレース開始直後に1台がエンジントラブル起こし、後続車が巻き込まれ多数が負傷。さらに事故車からは火災が発生するという大事故を想定されました。緊迫した状況の中、『大分DMAT・防災ヘリの要請』、『負傷者低所転落救出訓練』、『単車消火訓練』、『トリアージ(患者搬送順序識別)訓練』、『エアートtent設営』等が実施され、連携はスムーズに行われました。

竹田市は、住民の安心安全を守るため、今後も大規模な災害や事故に備えていきます。



想定外に備える！

竹田市消防署が総合訓練



↑廣瀬武夫役を演じた藤本隆宏さん(写真中央)とNHK番組制作チーフ・プロデューサーの藤澤浩一さん(写真右)

NHK大分放送局開局70周年を記念し、NHK公開セミナー「スペシャルドラマ『坂の上の雲』」が10月1日竹田市文化会館で開催されました。舞台には「坂の上の雲」で廣瀬武夫役を演じる竹田特命大使・藤本隆宏さんとNHK番



↑弾む会話と牛肉を焼く煙が漂う会場

NHK公開セミナー「スペシャルドラマ『坂の上の雲』」開催

組制作チーフ・プロデューサーの藤澤浩一さんが登場。スペシャルドラマ「坂の上の雲」第2部で印象的だった「アリアズナとの社交ダンスを踊る場面」や「旅順口閉塞作戦の場面」等の映像を撮影時のエピソードを交えながら楽しいトークを繰り広げました。藤本さんは長きにわたった過酷な撮影を振り返り「廣瀬武夫役を演じることが嬉しかったです」と話すと、会場いっぱい観客からは大きな拍手が送られました。また、ロビーでは「坂の上の雲」のドラマで使用した衣装や小道具などの展示も行われていました。

久住高原でおいしい秋を満喫

10月2日、「久住高原牛肉まつり」が久住山南登山口特設会場で開催されました。会場には多くの家族連れらで賑わい、しちりんを囲んで牛肉をおいしそうに頬張っていました。



↑はじめてのだっこをしながら「みてみて、かわいい！」

南高校生がふれあい体験

10月19日、「3、6、12か月健診」が竹田市総合社会福祉センターで行われました。

また、竹田南高校生徒(3年生)が子どもたちとのふれあい体験として参加をしました。



↑吉野 清さん

「市民の安心安全を守る使命を長年努めることができました。地域や関係者の皆様方に心より感謝申し上げます」

41年間の永きにわたり、消防業務に精励し自治消防の発展に寄与されました。元竹田市消防司令長

○瑞宝双光章
吉野 清さん(65歳・東本町)

受章おめでとうござります
危険業務従事者叙勲



今年もすくすくジャンボ! 愛と夢がつまった かぼちゃ勢ぞろい

←1位のかぼちゃと記念撮影する
子どもたち

愛育保健推進委員会が声かけ活動の一環として育てたジャンボかぼちゃの大きさや見栄えを競う「第11回竹田市荻愛育保健推進委員会ジャンボかぼちゃ大会」が9月30日、荻福祉健康エリア多目的運動場で開催されました。

重さを競うジャンボかぼちゃ賞で優勝したのは、荻町高城の白石信夫さん。このほかにもべっぴん賞やユニーク賞、重量あてクイズの各賞上位3名の皆さんが表彰されました。

また、記念講演会では「楽しく動いて 元気なからだ ところ」と題して、NPO法人にこにこフィットネス協会理事の岡田理絵先生が、ストレッチ等の実践を交えながら、心と健康の大切さを指導してくれました。



↑講演するにこにこ
フィットネス協会理事
の岡田理絵先生



↑協定を結び握手を交わす市長と安部俊司竹田署長

暴力団排除へ向けて 竹田署と市が協力協定

「竹田市暴力団排除条例」が10月1日から施行されたことに伴い、10月12日、「暴力団排除措置を講ずる連携に関する協定調印式」が市本庁舎で行われました。暴力団排除に向けて、両者の情報交換を綿密に行う等、連携を深めてまいります。



APU学生が緑ヶ丘中・荻小学生と国際交流

9月27日、緑ヶ丘中学校で、中学生と荻小学校の5、6年生がAPUの学生と国際交流集会を行いました。インドネシア、ベトナムなど4カ国から来た学生に日本文化を紹介しようと、生徒が神楽を披露したほか、「日本民謡協会豊肥支部」の皆さんとともに琴や尺八、三味線を披露しました。

国際学生たちはそれぞれの母国を紹介し、生徒は異国の風景や文化に見入っていました。グループ活動では、英語を実践的に話したり聞いたりすることにより、英語を通じてコミュニケーションを図ることの楽しさや緊張感を味わっていました。



↑〔写真左から〕大窪、吉野、中城、小出各氏

農に生きる技術伝道者を認定

10月13日、竹田市は農に生きる技術伝道者の認定式並びに意見交換会を行い、小出美起夫(とまと)、吉野幸恵(水稲)、内藤公博(花卉)、中城忠治(椎茸)、

大窪慎二(花卉)各氏へ首藤市長から認定証の交付を行いました。(内藤氏は欠席)

これで平成21年度に認定済みの加藤至誠氏(椎茸)、原眞治氏(とまと)とあわせ、7人の伝道者が揃い、各分野(品目)で卓越した技術と豊富な経験を農業後継者や農村回帰を通じた新規就農者に伝承する制度がさらに強化されました。

伝道者には、技術指導や助言はもちろん地域のリーダーとして、農政への政策提言を行ってもらうなど、未来への大きな役割が期待されています。

画聖・田能村竹田を詠んだ北原白秋(姉妹都市柳川市出身の詩人)の詩を、仙谷で40年以上にわたり書道教室を開いている書家の和田華扇(喜代子)先生が市に寄贈していただきました。(市役所応接室に掲げられた力作をぜひご覧ください)



竹田を詠んだ 書を受贈

9月20日、廣瀬武夫の祖母智満子が生まれた三砂自治会を中心に、彼女の教えを後世に伝える活動を続ける「智満子の教えに学ぶ会」から、教えを記した額をご寄贈いただきました。当自治会は、各家庭に額を掲げ、先人の教えを学んでいます。



智満子の教えの 額を受贈

第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭

紙 上 作 品 展

今年で63回目を迎える画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭の審査が、10月7日に竹田市体育センターで行われ、絵画の部(4,027点)、書写書道の部(2,142点)に出品された6,169点の中からそれぞれ28点が特賞に選ばれました。

なお入選作品は11月1日(火)から4日(金)まで竹田市体育センター、11月15日(火)から20日(日)まで市民ギャラリー水琴館(特賞作品のみ)で展示されます。

文部科学大臣奨励賞作品、市内の特賞受賞作品をご紹介します。(敬称略)



絵画の部

文部科学大臣奨励賞

鞭目 直仁
(豊後大野市立清川小学校2年)



大分県知事賞

吉田 杏里
(竹田市立竹田中学校2年)



竹田市議会議長賞

阿南 龍生
(竹田市立南部小学校5年)



竹田市教育委員会教育長賞

深田 綾乃
(竹田市立豊岡小学校2年)



毎日新聞社賞

井野 優奈
(竹田市立竹田中学校1年)



竹田市観光ツーリズム協会会長賞

足達 多恵
(竹田市立久住小学校3年)



毎日小学生新聞賞

賀籠六里歩
(竹田市立久住小学校4年)



毎日小学生新聞賞

志賀 愛理
(竹田市立白丹小学校1年)



竹田市美術協会会長賞

佐藤 茂人
(竹田市立久住小学校1年)



竹田市造形教育研究会会長賞

池田 美月
(竹田市立豊岡小学校2年)



竹田教育振興協議会長賞

中山 竜之介
(竹田市立岡本小学校2年)

竹田市長賞 甲斐 良紀 (竹田市立久住中学校2年)

二年 不断の追求 甲斐 良紀

書写書道の部 文部科学大臣奨励賞 横川 美公 (竹田市立杵築小学校6年)

六年 勇気を持つ 横川 美公

『竹田の陰の豪傑達』を出版

歴史を後世に伝える男 平野 耕治さん(上町・73歳)

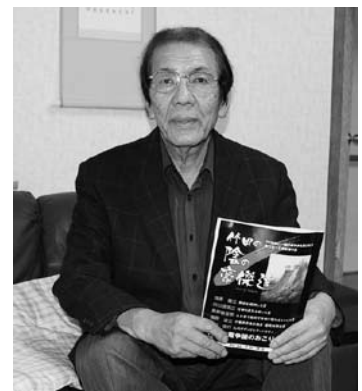
「岡城を提供した男・浅原健三」、「竹田の庶民を救った男・川口造酒三」、「大分県で初めて竹田に電灯をともした男・黒野猪吉郎」……。

あまり知られていない竹田の偉人たちの功績を後世に伝えようと、平野耕治さんが執筆した『竹田の陰の豪傑達』が10月に完成しました。

酒の席での昔話がきっかけ。鮮明な見識と記憶を「記録」として残すようにと友人に強く勧められ、制作を決心しました。

また、昭和初期の竹田で起こった歴史的出来事「竹田水電争議」を描く『闘争のあしあと』(相馬悟)を復刻し、併せて掲載しています。

「竹田市民全員に読んでもらいたい。本書が少しでも竹田の浮揚に役立てばと思う」。竹田を愛する豪傑・平野さんは、熱く語ってくれました。



↑「犠牲を覚悟し、権力に挑む勇者たちの実話」と話す平野耕治さん

長湯温泉料理研究会のあくなき挑戦

注目される温泉地をめぐります

ドレッシングやたれなどの商品開発を通じて、旅館の垣根を越えた連携を長湯温泉の調理長たちが深めています。彼らを突き動かすのは、彼ら自身の情熱であり、何より地域を揺り動かす「長湯温泉」を全国区にしたいという気概に他なりません。

長湯温泉の旅館で腕をふるう4人の調理人が、情報交換や旧直入町が行ってきたホワイトアスパラガスの収穫祭「シュパールフェスト」などのイベントをきっかけに平成15年、「長湯温泉料理研究会」（現在会員3人）を結成しました。

研究会が次に取り組んだのは「ドレッシング」の商品化。

研究会が初めに取り組んだのは地元食材を使った薬膳料理を作ること。ところが地域全体で取り組み、一体感を醸成しようとした挑戦には、思わぬ落とし穴がありました。「薬膳料理が地域に浸透しない、地域に受け入れられないもどかしさ」を味わうことになったのです。

結局、厚生労働省のパッケージ事業及び実現事業の中で展開



↑研究会の皆さん～中村国勝、古荘聡一、川越健至各氏～写真左から

その販売のため「板場合同会社」を設立し、女性3人も雇用名づけられた「滋味どれ」は健康ブームにあわせたカロリリー控えめの商品です。

しかし、ここでも「販路開拓」という大きな難題に向き合うこととなったのです。

試行錯誤の繰り返しの中で、今研究会が挑戦していることは、温泉水を使ったすき焼きのたれの開発です。入る温泉から飲む温泉、そして食べる温泉へと進化する研究会の上昇志向は止まらなことを知らないようです。

「腰が軽い僕達が先頭を走っていかばいいと思っています。失敗にくじけず、挑戦していきます。その宿に泊ったお客さんの評価が長湯温泉そのものの評価につながることを胆に銘じて、これからも全力疾走します」

3人の心意気が、長湯温泉に夢あるアクセントをつけてくれることは間違いありません。

受章おめでとうございます

危険業務従事者叙勲

○瑞宝双光章

安部 廣秀さん (61歳・東原)

34年間の永きにわたり、国防の第一線でご活躍し、国の安全を保ち、公共の秩序の維持に尽力されました。元一等空尉「新ミサイル導入のための単身渡米や家族も含む米国生活など、航空自衛官として密度の濃い34年余りでした。」



↑安部廣秀さん

支えてくれた周囲に感謝するとともに、この経験を生かし地域貢献していきたいと思えます」

サザエさんが長湯温泉に

フジテレビの看板アニメ番組「サザエさん」(TOS毎週日曜日18:30)のオープニングに10月から大分県の観光地が登場しています。

竹田市からは「岡城跡」と「長湯温泉」の2か所が選定されました。

全国に向けての情報発信という点では、大きな効果が期待できます。ぜひご覧ください。また、来年1月から3月までの期間は久住高原(くじゅう花公園)が登場する予定です。

なおいり情報

第14回直入愛育まつり&見て・みてクーキャンコンテスト

日時 11月2日(水) 8:30～ 開会
ところ 直入総合運動公園中央グラウンド及び直入公民館
(雨天の場合、グラウンドゴルフは中止。受付9:30、開会10:00に変更されます)
内容 ・グラウンドゴルフとクーキャンコンテスト(9:00～)
・笑いの健康づくり講演会(10:30～)
[講師] NPO法人博多笑い塾理事長 小ノ上マン太郎氏

●お申込み・お問い合わせ
竹田市直入支所いきいき市民課 ☎75-2211

第35回直入地域ふるさと振興祭

日時 11月13日(日) 9:00～14:00
場所 竹田市直入支所前イベント広場ほか
内容 伝統芸能、農産物せり市、各種大会、味の広場、各種展示ほか

●お問い合わせ
竹田市直入支所いきいき市民課 ☎75-2211

ぼくたち・わたしたちの学び舎

小羊保育園

神様に守られながら育つ子ども

小羊保育園はキリスト教の保育園です。毎日、朝の集まりの時、給食の時、帰りの集まりの時にお祈りをしています。それと、月に2回みんなでホールに集まって合同礼拝をします。合同礼拝では、讃美歌を歌ったり、園長先生(牧師)に神様の話を聞いたり、みんなのためにお祈りをしてもらいます。6月には花の日礼拝、11月には収穫感謝礼拝、12月にはクリスマス礼拝があります。クリスマス礼拝では、礼拝後イエス様誕生のお祝いの会があり保護者も招いて、歌・合奏・ダンス・劇あそびを披露します。最後に4歳児が「聖



↑「聖誕劇」を演じる子どもたち

誕劇」をします。終わりの場面では、子どもたちがキャンドルを持って「きよしこの夜」を讚美します。感動的なシーンです。また、絵本の読み聞かせにも力を入れています。良い絵本を揃え、0歳児から毎日10冊程度読み聞かせています。子どもたちは、絵本が大好きで「読んで」と持つてきます。親子のふれあいの一環として貸し出しもしています。運動会やクリスマス会でも競技や劇あそびなどに絵本を取り入れています。食育の一環としては、野菜作りもしています。小さな菜園なので沢山収穫はできませんが、



↑絵本の読み聞かせ



↑神様のお話をする園長先生

給食の先生に調理してもらってみんなで食べます。夏には、トマト・きゅうり・ピーマン・四角豆、オカワカメを収穫し、10月は芋掘りもしました。今は、水菜・キャベツ・セロリ・白菜・人参・ほうれん草・ラディッシュを植えて年長児が水やり等のお世話をしています。

秋は、気候が良いので散歩にも出かけます。3・4歳児が主ですが、未満児も大きい子に手をつないでもらって近くまで出かけることもあります。自然とふれあつてのびのび遊んでいます。

これからも、いろいろな経験をを通して、心身共に健やかな成長を願っていきたいと思います。
(野仲真理子)

モノづくり博物館

70

荻町馬場出身です。

豊後荻町がある位置は、大字馬場小字で、駅が出来たのは一面野原で、名前のようにさびしい所でした。

駅が開業すると、駅前には旅館や食堂のほか、雑貨店なども次々と開店し新しい通りが出来、この周辺には何百本もの桜の木が植えられました。

地元出身で当時福岡県庁の部長だった吉田さんが、郷土発展のためにと寄贈されました。

地名も「桜町」と名付けて頂き、現在に至っています。吉田光さんは幼い頃から、妙雲寺の寺小屋式の学習に熱中し15才で早くも代講を許されています。

明治初期制定された普通文官試験にも見事合格しています。

大分県庁に奉職し、その真面目さと向学心は現職のまま、内地留学の形で石垣原農学校へ1年間学ぶ事を許されたそうです。

その後大分県庁より、福岡県庁土木課に転任、明治30年より30年間勤務、学ぶ

桜町(自治会)名づけの人 吉田 光



↑吉田 光さんの胸像

参考：「豊後線物語・回顧荻小」
吉田さん宅の許しも頂きました。
(工藤重光)

こと事業慾には止まることなく、大学出身者と肩をならべる土木技師に、辞職する時は秦任官待遇で、この間手がけた土木事業は、福岡大共進会の時現大濠公園の建設工事、筑後川の氾濫を防ぐ久留米放水路の大工事その他県内の中小工事の設計、監督等土木工事の主任技師として活躍。退職後も、当時の長野県の土木課長が福岡まで来て善光寺参道の工事を託したそうです。荻町でも豊後荻町と馬場間の道路を設計しています。現代の様に機械化された工事ではない時に、一生を自力で努力で全力をかけた度根性は、誠実、手腕、経験、人格にと頭がさがります。

私たちの健康は 私たちの手で

食生活改善推進協議会とは？

「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に、地域で食を通して健康づくりのボランティア活動をしている組織です。学習会や研修会を通してともに学びながら楽しく活動しています。各地域にある会は、合併前から長年活動してきた歴史があり、今はそれぞれ特色を生かした活動をしています。

保健だより

竹田市健康増進課 ☎63-4810
 荻支所いきいき市民課 ☎68-2211
 久住支所いきいき市民課 ☎76-1111
 直入支所いきいき市民課 ☎75-2142



【会の紹介】

◎しらゆり会（竹田）
 会員数187名。高齢者配食サービス、ふれあい弁当作り等ボランティアで地域を盛り立てるとともに、新年交流会を企画して楽しい会作りを目指しています。

◎コスモス会（荻）
 会員数25名。ふるさとまつりでトマトを使った料理の普及や、学校と協力して食育等も行って

しらゆり会（竹田）・コスモス会（荻）が設立30周年を迎え、今年度記念式典を開催します。

しらゆり会
 11月11日（金）9時半から
 コスモス会
 2月8日（金）時間未定

どちらも昭和55年に設立。地域での減塩の普及や郷土料理コンクールへの出品など様々な健康づくりや食育活動に取り組んできました。

◎いでの会（直入）
 会員数34名。昨年度30周年記念式典を開催しました。健診時の「元氣茶屋」やクーニヤン井作りで地域の方々に頼りにされています。

◎今後の全体の活動
 今年度の『弁当の日』おかげ大集合』は、12月11日（日）に直入中学校で開催予定です。会員手づくりのおかずがずらつと並びます。伝承の味・手づくりのよさを伝えるよい機会となるよう頑張ります。

◎みつわ会（久住）
 会員数35名。設立36年になりますが、初の男性会員が2名入会し活気づいています。健診時の「元氣茶屋」や高齢者へのおせち・弁当の配食サービスも好評です。



↑いでの会30周年記念式典

【作り方】

1. ぶりに塩・こしょう・にんにくで下味をつける
2. 小麦粉をつけ、卵をくぐらせパン粉をつけて揚げる

※給食で使用するぶりは大分県魚です。蒲江で養殖している「豊の活きぶり」です。新鮮なぶりなので臭みもありません。ニンニクの香りがポイントです。とてもおいしくできますよ。

〈材料〉

- ぶり切り身
 塩・こしょう・にんにく
 小麦粉 卵 パン粉 （すべて適宜）



今月の「食育」レシピ



ぶりかつ

学校給食一日丸ごと大分県について

『学校給食一日丸ごと大分県』とは、大分県内で生産される食材を100%活用した給食づくりをする取り組みです。児童・生徒が地域に関心を持ち、自然の恵みや生産者の方々に感謝の気持ちを持つことを目的として大分県全体で取り組んでいます。

竹田市は11月18日（金）に実施します。竹田市は豊かな自然と、食材に恵まれた地域です。年間を通じ地元の食材を給食にとり入れることができます。しかし、全国的に見て国内産の食糧自給率は40%をきって食材によっては輸入に頼っている状況もあります。現在の食事情から100%地元産で献立を考えるのは実はとても難しいことなのです。一番身近な「食」について考えてみませんか？

（竹田市学校給食研究会 竹田中央調理場栄養教諭 澁）

11月18日の献立

サフランライス、ぶりかつ、ほうれん草ときくらげのサラダ、竹田カレー、かぼすゼリーです。

「D級グルメ」が今秋、市内の飲食店に登場

竹田市観光ツーリズム協会と竹田市健康増進課が連携して企画を進めている「D級グルメ」の実証実験が、11月21日から開始されます。

「D級グルメ」とはデリシヤス&ダイエツトの頭文字をとったもので、「美味しく低カロリー」なグルメのことを言い、竹田市民の健康増進と温泉療養保健制度で長期滞在をする観光客に活用して頂くことを目的としています。

竹田市内の25店舗が手を挙げ、それぞれが工夫を凝らした低カロリーで美味しいメニューを3月末まで注文することができ、(一部例外もあります)

〔D級グルメ例〕
玄米サンド

- ・ミネラル豊富で腹持ちの良い玄米を使用
- ・カロリー半分のマヨネーズを使用

- きのこ鍋
- ・低カロリーで食物繊維が豊富なきのこをふんだんに使用
- ・カラーゲンボールが入っている

るため美容にも良い。

それに伴い、竹田市観光ツーリズム協会では、「D級グルメ」の無料モニターを募集します。下記要項をお読み頂き、皆様のご協力をお願いいたします。

〔D級グルメ無料モニター募集〕
募集内容 竹田市観光ツーリズム協会が指定する参加店にてお食事をしていただき、アンケートに答えていただきます。

(食事券を発行し、モニター料とかえさせていただきます。)
募集期間 11月1日～11月11日まで

実施期間 11月21日～12月18日
応募条件 Delicious & Diet「D級グルメ」に関心のある方。
アンケートに答えていただける方。

募集人員 25名
※応募者多数の場合は抽選ときさせていただきます。

申込・お問合せは、竹田市観光ツーリズム協会まで
☎ 0974-6310585
FAX 0974-6411127



厚生労働省パッケージ事業 あなたが開ける チャンスの扉！

生き生き興起雇用創出大作戦！ 公開セミナー“寄り合い”を開催しました。



10月22日(土)に開催した「生き生き興起雇用創出大作戦！」公開セミナー“寄り合い”は、多くの市民が参加し熱い議論が交わされました。今回のテーマは、竹田市の地域福祉の現状と課題として、『生活課題実態調査から見る竹田市のこれから』と題して、大分大学教育福祉科学部の衣笠一茂教授から基調講演が行われました。調査では、高齢世帯及び若いお母さん達に生活に対する不安や課題が多く、地域福祉の必要性や生活支援などのサポーターのあり方が示されました。基調講演をもとに円卓会議が行われ事例発表とパネラーからの議論、提言がなされました。会場の皆さんと同じ目線で行われた円卓スタイルのパネルディスカッションに加え、随時アンケートにより会場の参加者からの意見や感想を發表することで、多くの皆さんの意見が反映でき、地域福祉や暮らしのサポートセンターのあり方について、共通認識を持っていただくとともに、参加された皆様には、当協議会の取り組みや目指す方向について、ご理解をいただきました。

当日の様子につきましては、ホームページをご覧ください。

第2回就職セミナー&合同企業面接会 “福祉のお仕事” を開催

就職セミナー&合同企業面接会を開催します。8月に続き第2回となりますが、今回は福祉、医療、介護分野を中心として、就職の際の心構えなどキャリアカウンセラーによる講演があり、引き続き地元企業と求職者のマッチングの場となる合同企業面接会を行います。各企業は仕切りで区切られており、多くの企業の説明を聞くことができます。福祉、医療、介護分野となっておりますが、資格がない方もお越しくください。福祉の仕事相談コーナーを用意しておりますので、お気軽にご相談ください。また、第3回は、来年1月上旬に一般の企業を交えて開催する予定です。



★セミナー開催と募集のお知らせ

- 募集中** 暮らしのサポータースキルアップセミナー (実技主体) 10月16日(日)～11月13日(日)
- 募集中** 湯中運動インストラクター養成セミナー 11月13日(日)～11月28日(月)
- 開催** 第3回環境・エネルギー企業化支援セミナー (事業主向け) 11月30日(休)
- 開催** 第3回BDF(廃食用)活用人材育成セミナー (求職者・創業者向け) 11月8日(火) 10:00～
- 開催** 第3回竹資源活用人材育成セミナー (求職者・創業者向け) 11月8日(火) 13:30～

詳しくは、下記のホームページ <http://taketa-syokuiku.org> をご覧ください。
竹田市経済活性化促進協議会
☎62-2122



岡城の魅力再発見

岡城の石垣普請

近戸門礎石・車敷

VISITOR'S VOICE

岡城跡で観覧者アンケートより

- ・中休所にイスとお茶を飲める施設があれば良いなあと思います。
(長崎県佐世保市・男性64歳)
- ・竹田で生まれ育ち18年過ごしました。他県に行き28年。やはり竹田への恋しさが生まれます。帰省して、久しぶりに岡城を訪ねました。石垣がきれいに見えるよう除草をお願いします。岡城は日本でも誇れる城です。竹田市、がんばれ!
(三重県多気郡多気町・女性46歳)
- ・山の中から石垣が生えているみたいですが、春秋なら楽しそうです。
(香川県高松市・女性35歳)
- ・城跡の大きさが良かった。古人の偉業が偲ばれる。(福岡県宗像市・男性68歳)
- ・順路の説明がわかりにくい。この先に何かあるのか不明。また、古いものはできるだけそのまま残して欲しい。(無記入)
- ・登城券や案内図が変わっていて記念になる。もっと竹田城や津山城のように宣伝をするべきだと思う。
(香川県高松市・男性42歳)

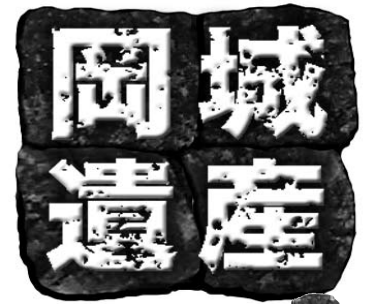
ご協力ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

城郭や曲輪の出入口であると同時に、城攻めの際に攻防の要所となるため、厳重に防衛される箇所には門が築かれています。『中川氏御年譜』には、文禄3年(1594)岡城普請始まるの条で「(前略)下原口ヲ搦手トシ、近戸口ヲ切開キ、三口トス、此時穴太伊豆ト云者ヲ大坂ヨリ呼下ス、(後略)」と記されています。

城郭や曲輪の出入口であると同時に、城攻めの際に攻防の要所となるため、厳重に防衛される箇所には門が築かれています。『中川氏御年譜』には、文禄3年(1594)岡城普請始まるの条で「(前略)下原口ヲ搦手トシ、近戸口ヲ切開キ、三口トス、此時穴太伊豆ト云者ヲ大坂ヨリ呼下ス、(後略)」と記されています。

穴太積みは、大小の整形して見透けてしまうため宜しくない。穴太積みは、大小の整形して見透けてしまうため宜しくない。穴太積みは、大小の整形して見透けてしまうため宜しくない。

竹田市民なら知っておきたい!



す。すなわち、正門にあたる大手、通用門として利用されていた近戸、裏門(搦手)に変更された下原です。

ただし、大手門は、文禄3年(1594)には、東側に石垣が残る古大手の位置にありました。慶長17年(1612)藤堂高虎が肥後からの帰りに立ち寄った際に朝日に向かい片ヶ瀬より見透けてしまったため宜しくない。と助言を受け、現在の位置に付け替えられました。

穴太積みは、大小の整形して見透けてしまうため宜しくない。穴太積みは、大小の整形して見透けてしまうため宜しくない。



ドイツ姉妹都市 バート・クロツインゲンコーナー

A column by claudia kehl

クラウディア・ケール
(国際交流員)



↑1912年頃、クロツインゲンの温泉(背後に掘削リグ、手前に桶がある)

バート・クロツインゲンで 温泉文化の発生

今からちょうど100年前、バート・クロツインゲンで温泉が発見されました。それは期せずして発掘されました。

1911年ルートヴィヒスハーフェンのラシック化学社は掘削で石油が出ることを希望していましたが、400メートルの深さで熱い炭酸水が出てき

ました。ラシック化学社はあまり喜んでいなかったらしいです。石油を見つけるための試みは何度も失敗しましたが、1911年11月25日、バートクロツインゲンでの温泉誕生となり、市民にとっては災い転じて福となすこととなりました。すぐに多くの関心を集め、1912年7月22日にツインバー

さんというバートクロツインゲンの業者、レツムリンガーさんという医者とグライヘンスタインさんという方が共同で「ネナ温泉とクアハウス有限公司」を設立しました。入浴のためだけではなく、飲む温泉のコンセプトもありました。入浴施設の建設が完成するまでに、バートクロツインゲン市民は幅5メートル、深さ1.5メートルの木材の桶で入浴を楽しめました。この桶は温泉が出し始めた石油の掘削リグのそばに置いてありました。当時は家庭にお風呂があることが珍しかったので、大人気になりました。特に男女若者たちの中で「夜中入浴」が大人気になり、マナーを守らない傾向があったので、「夜中入浴」が禁止になりました。

1914年最初の温泉施設の落成式が行われました。利用者がだんだん増

ドイツ訪問団、ただいま練習中！ 魅せます！バートクロツインゲンでパフォーマンス

11月23日の姉妹都市ドイツ・バートクロツインゲン市温泉発掘100周年記念行事に参加するため、竹田市ドイツ訪問団(首藤勝次市長以下17名)が出発する前に、旅行説明会を行ってきました。

現地では竹田市をPRする機会もあるため、訪問団では瀧廉太郎作曲の「荒城の月」や「花」などの歌と、「竹田おどり」を披露することを決めました。

10月12日の第3回練習会。参加者は音楽に合わせてながら、何度も繰り返し練習をしました。(本番では浴衣を着用し、竹の代わりにカスタネットを鳴らしながら踊ります)

ドイツ訪問は11月17日出発、27日の帰国までの10日間の行程です。バートクロツインゲンの滞在中はホームステイですので、姉妹都市の交流がさらに深まることでしょう。



→ドイツの歌「ウェルナーの野ばら」を練習する訪問団のみなさん(10月19日)

えたので、1929年施設が拡大されました。温泉が大変有名になったおかげで、1933年8月から「バート」(温泉という意味)というタイトルを「クロツインゲン」の市名の前に付けられるようになりました。その結果、ますます利用者が増えました。

今年、温泉発掘100周年がきっかけとなり、ヴィタクラシカ温泉施設がさらに拡大され、脱衣所も増え、30㎡の新しいプールが造られました。エントランスの情報窓口で3Dシネマも設定されました。

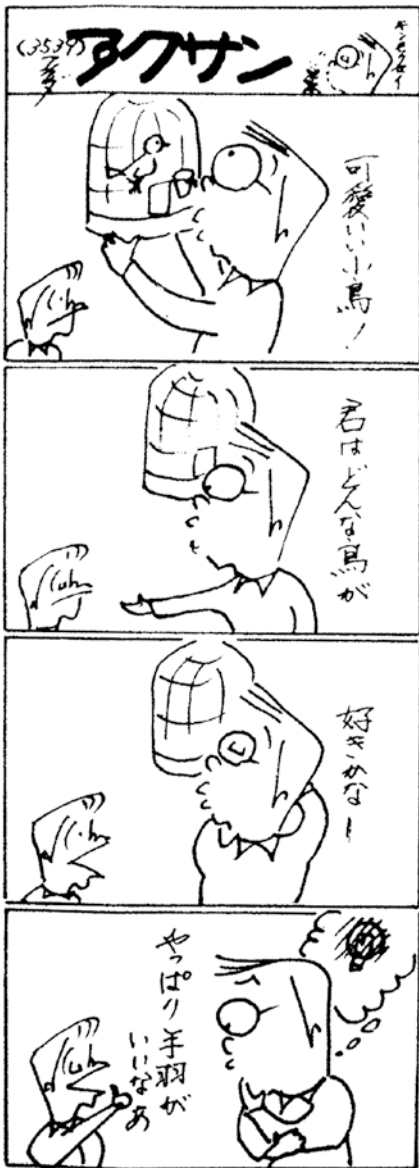
Ready 2 chat 英会話 (英語中・上級)

時間 11月2日(水) 19:00 ~ 21:00

場所 竹田市総合社会福祉センター会議室

参加料 無料

●お問い合わせ 竹田市商工観光課 ☎63-4807



今月の新刊ご案内

〔一般の本〕

- ・財務省の階段
- ・百歳
- ・マスカレードホテル
- ・凜としてひとり
- ・戦場のエロイカ・シンフォニー
- ・るるぶ日帰り温泉九州山口
- ・ヤギと暮らす

幸田真音
柴田トヨ
東野圭吾
淡路恵子
ドナルド・キーン
るるぶ情報版
今井明夫

〔子どもの本〕

- ・石のきもち
- ・ほしがきぺろぺろ
- ・おどるカツオブシ
- ・アリ・ババと40人の盗賊
- ・2さいの本のりもの

村上康成
つちだよしはる
竹内通雅
エムル・オルン
汐見稔幸

他、180冊ほど入りました

図書館から 11月の お知らせ

- 竹田市立図書館
TEL・FAX 63-1048
- 荻図書館(荻みらい館内)
TEL 68-2200・FAX 68-2057
- 久住図書館
TEL 76-0717・FAX 76-0724
- 直入図書館
TEL 75-2240・FAX 75-2231

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

※カレンダー中の白抜きの日が
休館日です。

今月の読み聞かせ

おはなしルーム

日時 11月9日(水)
13:20~14:00
場所 竹田幼稚園

文化の日のおはなし会

日時 11月3日(水)10:30~
場所 えほんのへや
祝日ですが、開館しています。
ぜひお出かけください!

ブックスタート

日時 11月16日(水)
14:00~
場所 竹田市総合社会
福祉センター

おはなしルーム

日時 毎週火曜日
10:30~11:00
場所 竹田市立図書館
えほんのへや

工藤博視文庫をご利用ください

「現代の子どもたちにも読書の楽しさを感じてほしい」と、竹田市立図書館に児童図書の購入費用としてご寄付していただいた工藤博視さん(田町・85歳)の児童書コーナーを設置いたしました。

これからも工藤さんの思いが子どもたちに伝わるように、児童書の充実を図っていきます。



「司書おすすめの一冊」

「晩年の発見」 わたしに残された時間

下重 暁子



元NHKアナウンサーの下重さんの最新エッセイ集。死ぬまでにしておきたいことひとりの準備、暮らしの技術を磨く方法など日々の試みを綴った一冊です。

自分らしくある、そんな生き方が出来れば……。

「マキちゃんのえにつき」

いせ ひでこ

たいくつな日なんて一日もない!保育園に通うマキちゃんとはとても忙しいのです。昔も今もマキちゃんの日にはいろんなマキちゃんがいっぱいつまっています。絶版だったこの本に未発表短編が加わって再販されました。



人口のうごき

(平成23年9月30日現在)

(前月比)

人口 24,914 人 (-21人)
男性 11,599 人 (-6人)
女性 13,315 人 (-15人)
世帯数 10,534世帯 (+3世帯)

住民基本台帳登録

誕生おめでとう

9月生まれ(親・自治会)



恋し『サンチャゴの鐘』



竹田市では来年の「岡藩城下町400年祭」に向けて、国指定重要文化財サンチャゴの鐘の音を響かせようという計画をしています。併せて、叙情演歌「サンチャゴの鐘」（横井弘作詞・船村徹作曲）の復刻を予定。今回は、支援のエッセイが元大分合同新聞特別編集委員の可兒敦彦氏より届きましたのでご紹介します。

私は、船村演歌が好きだ。作曲家・船村徹氏の歌は、どれもしみじみとして、言葉に靈感があるように、音にメロデーに、靈力があるように思えてならない。でなければ一音一音がこうまで思いの中に残るはずはないし、時に泣けるはずはない。

そのころ私は大分合同新聞の文化部記者として竹田市と縁が濃かった。

入社から10年ほど経った齢30代の駆け出しのころで、主に映画、テレビのロケ取材を担当し、全国各地のロケ現場を訪ねていた。とりわけ県内のロケ撮影となるとが俄然張り切って、現場に泊まり込みの「密着取材」という形で撮影スタッフを追った。

竹田市と縁があつた最初は、昭和56（1981）年のポラテレビ小説「愛をひとつまみ」のロケ取材だった。新人の沖直美主演のドラマは当時、民放局としては画期的な月曜から金曜までの昼の時間帯で放送。竹田市が全国に紹介された。

続くドラマロケは紺野美沙子、新藤栄作共演の「じゃがいもと三日月」で昭和60年のこと。北海道・喜茂別町で、ジャガ芋農家を継ぐ青年と、竹田美人の中学女教師の恋愛交流を描いたもので、人気を博していた東芝日曜劇場で2週にわたって放送された。ともにロケの様子が放送後の「観賞評」まで一貫して新聞紙面で紹介した。

さて、長く竹田市との縁をたどってきたが本論はこれからだ。

実は2本のテレビロケより以前、私は「竹田を歌った素晴らしい歌がある」「それも船村演歌だ」と聞いていて、ずっと気になっていた。歌は「サンチャゴの鐘」（昭和48年制作）というのだ。

情報の主は、竹田市出身の後藤貞夫氏（大分市在住）だった。後藤氏はOBSを早期に退職し、県内各地のイベントや歌謡ショーの総合司会業を担っていて、船村氏の楽曲にことのほか心酔していた。船村氏が来県の際に出会いを重ね、親交は深まり、ついには故郷・竹田に船村氏を招いたことでご当地演歌が船村氏の胸中に動き始めたという。

作詞に横井弘氏が決まって、2人のヒットメーカーが歌づくりに本腰を入れたとき、後藤氏は「竹田はトンネルの町です。トンネルを魅力的に書いてほしい」と注文したという。

こうしたエピソードを聞いていたからドラマロケの合間、私は「サンチャゴの鐘」を求めていた。それがふと立ち寄った町中の寿司店で一気に「解決」をみたのだ。

テープがあつた。舟木一夫が歌う「サンチャゴの鐘」を聴いた。ギターの音が静かに深く弾けて荘重な印象を持った。

一、城あとに ひとり登れば
ふるさとの 町はたそがれ
栗色の髪に 生まれて
かくれ住む 女を愛した
サンチャゴの サンチャゴの
鐘のある町

二、武家屋敷 古い土堀に
残るのは 遠い想い出
しのび逢う 夜は短く
山の端の 月に鳴らした
草笛の 草笛の 歌の哀しさ

二度、三度聴いて、また聴いた。紫色に暮れなずむ山合いの竹田の町並みが忽然と姿を表わすようだ。キリシタン文化を潜める悠久の歴史をさえも青紫色に染め上げるようだ。そうした色合いの中で、詞は、隠れキリシタンが生きたつらく厳しい時代をつかみ取り、東の間の人を愛する喜びにすぎない若い男女の輝きを書き通している。三番はこう歌う。

三、海越えて 父を求めて
ロザリオと 消えたあの女
トンネルに 風はなく日は
しなやかな 肩を抱きしめ
サンチャゴの サンチャゴの
鐘をききたい

かつて後藤氏が願ったトンネルの魅力がこんな詩情で表現されたのだ。詞を書いた横井氏といえは「あざみの歌をはじめ、三橋美智也の「哀愁列車」「達者でな」、春日八郎の「山の吊り橋」ほか「川は流れる」「下町の太陽」「夕焼け雲」など、人を恋うる故郷を恋うるヒット曲を多く生み出している。



↑可兒敦彦氏

「サンチャゴの鐘」は完成後、発売の直前になつて世に出ないままの不運に見舞われた。しかし、舟木の歌声に乗る、「歌語り」は卓越した情趣をたたえて今に残る。「サンチャゴの鐘」は叙情演歌といつていい。その叙情性は、岡城跡をイメージしたのである。滝廉太郎の名曲「葦城の月」を損うことなく、いや、むしろ寄り添って、哀調の音霊を相乗の効果として聴かせてくれる。

テープを聴いた寿司店の一夜から私は「サンチャゴの鐘」を忘れ切れない。竹田市立歴史資料館にある銅鐘「サンチャゴの鐘」は国指定重要文化財の逸品。製造年を1612年と刻し、数えて来年がちょうど4百年になる。くしくも「岡藩城下町400年祭」とびつたり重なり合う。叙情演歌「サンチャゴの鐘」が復活する息遣いを感ずる。

祝祭への新たなレコーディングが実現すれば、竹田市が全国を駆け回る期待もうれしいが、まずは歌が竹田市民に知られ、愛されるのが肝心だろう。そのとき竹田市民は、歌詞がささやきかけるように「サンチャゴの鐘を聞きたい」と願うのではなからうか。鐘の音は「平和」を告げる。東北地方大震災からの復旧、復興が日本人共通のがんばりになっている今、竹田市から人、人共栄の平和の鐘の音を響かせるとしたら、こんな無上の感激はない——

（元大分合同新聞特別編集委員・可兒敦彦）



←答申書を手渡す神田会長（中）、
衛藤副会長（右）



久住地域審議会が市長に答申

地域資源を生かすまちづくり

本年5月26日、市長は市内4地域の課題に応じた諮問を各地域審議会に行いました。

荻地域に続き9月28日、久住地域審議会の神田長徳会長、衛藤徹三副会長が首藤市長にアイデアの詰まった答申書を手渡しました。

久住地域審議会への諮問と答申内容は次のとおりです。

入れた顧客サービスの実施。

1. 地域の問題点に対して、今そして未来に向けて必要な施策について

①久住の文化・歴史・自然を活用した観光の見直しを図ってはどうか。

・マラソン大会を利用した地域興し。

・YOKAROBASを利用した観光客の取り込み。

・地元ガイドの育成。

・イベントの充実。

②地元のリーダーを若い世代から作ってほしい。そのため地域社会をリードする人材育成を希望する。

③合宿などの受け入れ体制を充実させてはどうか。

2. 久住高原荘の今後のあり方について

①高原荘のファミリーメンバー等を募集してはどうか。サービスが安く提供される等のメリットを作り、地元から高原荘を盛り上げていく仕組みを作ってはどうか。

②グラウンドゴルフ等の地域行事を取り

3. 久住支所の活用について

①議場を小さな美術館にし、高原周辺にある歌碑も関連付けし展開してはどうか。

②支所又は公民館、ふれあい広場（フロア）を作り、無料で何時でも誰でも利用できる場所を作ってはほしい。

③教育委員会又は農業委員会部局を2階に移設し、庁舎の有効利用をしてほしい。

④観光協会・森林組合等の施設を庁舎に入れてはどうか。

久住高原を背景に旧町時代から引き継ぐ芸術作品や支所機能をしのぐ庁舎など、いわば恵まれすぎているが故の苦悩に陥っているともいえる久住地域。その資源を有効活用し、この答申を踏まえ、TOPミーティングを開催する中で、早急な対応策を練る必要があるようです。

●お問い合わせ

竹田市久住支所 ☎76-1111

「平成22年国勢調査」竹田市人口等基本集計結果をお知らせします (平成23年10月26日公表)

平成22年10月1日現在の竹田市の人口は、24,423人で、前回調査の17年に比べ2,111人、8.0%減少し、人口を男女別にみると、男性11,227人、女性13,196人で、女性が1,969人多く、人口性比(女性100人に対する男性の数)は、平成17年の87.9から85.1へと低下しています。

65歳以上の世帯員のいる一般世帯は6,200世帯(一般世帯の65.0%)で、このうち「一人暮らし高齢者」(65歳以上の単独世帯)は1,631世帯(65歳以上の世帯員のいる一般世帯の26.3%)、高齢夫婦世帯(注)は1,782世帯(同28.7%)となっています。

(注)夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦1組の一般世帯

人口総数及び内訳

地域	人口総数		人口(男)	人口(女)	年齢				年齢別割合		
	平成22年	平成17年			15歳未満人口	15~64歳人口	65歳以上人口	不詳	15歳未満人口割合	15~64歳人口割合	65歳以上人口割合
竹田市	24,423	26,534	11,227	13,196	2,289	12,135	9,954	45	9.4	49.8	40.8
大分県	1,196,529	1,209,571	564,890	631,639	155,634	717,319	316,750	6,826	13.1	60.3	26.6

一般世帯数及び世帯の構成

地域	一般世帯数	世帯の構成						
		うち夫婦のみの世帯	うち夫婦と子供から成る世帯	うち男親と子供から成る世帯	うち女親と子供から成る世帯	うち単独世帯	うち高齢単身世帯	うち高齢夫婦世帯
竹田市	9,543	2,553	1,517	101	636	2,787	1,631	1,782
大分県	480,443	107,549	122,946	5,739	36,452	148,343	53,384	60,323



●お問い合わせ 竹田市企画情報課 文化・地域振興室 ☎63-1111 (内線221・222・223)

交流の軌跡が生み出す未来



↑シュタンツェル大使から感謝状を手渡される首藤市長

「感謝状を手にした瞬間、今は亡き岩屋万一元直入町長が団長として、海を渡った時のことが走馬灯のように脳裏を横切る。先人の夢を乗せた勇気ある挑戦のドラマが今に引き継がれていることに胸を熱くした。その後、伊藤隆弘元直入町長、牧剛尔前竹田市長らへ途切れることなくパトタッチされたことに感謝している」(首藤市長談)

旧直入町が平成元年から始めたドイツ・バートクロツインゲン市との国際交流は、今年で22年の歴史を刻みました。旧町担当職員として当初から携わり、数多くのイベントを重ね、濃密な交流を体系付けたのが首藤勝次市長です。このような働きや姉妹都市締結に導いた功績が評価され、11月19日東京都港区の在日ドイツ連邦共和国大使館大使公邸で行われた授賞式において、首藤市長が「日独友好賞」を受賞しました。




日本人とドイツ人を対象に日独友好のため、草の根的かつ継続して貢献した方を「功労者」として、また、将来にわたり日独友好を担う方を「奨励者」として、東京のドイツ大使館とベルリンの日本大使館で各60人を表彰するものです。(ベルリンは12月1日開催予定) 東日本大震災の影響で当初の5月から延期されていた東京の授賞式には41人の功労者と19人の奨励者が出席、首藤市長も功労者の一人として式典に臨み、フォルカー・シュタンツェル駐日大使から感謝状を授与されました。 「私個人のものでなく、渡独や交流

に協力していただいた市民の理解があつてこそで、竹田市が受賞したに等しい」と語る市長。 嬉しいことに、この日独交流は、ロシアとの交流に飛び火し、新たな奇跡が演出されようとしています。 11月の「温泉発掘100周年記念式典」に出席するため、バートクロツインゲン市へ向かう公式訪問団(市長が団長)は、最高の手土産を携行することになりました。



↑平成21年11月、交流拠点「直入公民館」で開催した20周年記念式典で、両市関係者が一堂に会しました。

●竹田市（旧直入町）とバートクロツィンゲン市との交流の歴史●

開催年	内 容
平成元年 (1989)	第1次表敬訪問団派遣～友好親善関係構築 「全国炭酸泉シンポジウム」開催
平成2年 (1990)	第1次研修生の派遣 国際化推進グループ「西方見聞録」の結成
平成3年 (1991)	第2次表敬訪問団派遣 第2次研修生の派遣 初代国際交流員の赴任
平成4年 (1992)	ママさんコーラスグループ、第3次研修生の派遣 ドイツコーラスグループの来町 「西洋と日本の温泉文化フォーラム」開催
	 <p>今は亡き、大恩人フックス市長と岩屋町長</p>
平成5年 (1993)	第1次ミッション団の派遣 第4次研修生、第2次ミッション団の派遣 飲泉場COLONADAの完成
平成6年 (1994)	バート市訪問団来町 交流5周年記念「ドイツ音楽とワインの夕べ」開催 第5次研修生の派遣
平成7年 (1995)	町民研修団(海外・国内)、第6次研修生の派遣 ドイツ連邦議会議員の視察・交流、ドイツ駐日大使夫妻来町 ヴィタ・クラシカに日本庭園造成
平成8年 (1996)	
	第1期中学生の直入ホームステイ及びドイツホームステイ交流 日独貿易振興会議発足・ドイツワイン直輸入1万本突破
平成9年 (1997)	日独議員連盟、総領事及びバート市訪問団来町 第5代国際交流員の赴任
平成10年 (1998)	毎日新聞「地方自治大賞」受賞 第2期中学生のドイツホームステイ交流 バート市に直入町のぶどう畑誕生、贈呈式に代表団派遣
	
	交流10周年記念、国際シンポジウム「温泉と文化」開催 バート市訪問団来町 温泉療養文化館「御前湯」完成 温泉交流施設「長生湯」完成
平成11年 (1999)	第3期中学生のドイツホームステイ交流 第2期中学生の直入ホームステイ交流 御前湯と「ヴィタ・クラシカ」が国際姉妹施設提携 ドイツ交流10周年記念のドイツ訪問及びぶどう収穫祭参加 第4期中学生のドイツホームステイ交流

開催年	内 容
平成12年 (2000)	全国過疎地域活性化連盟会長賞受賞 第3期中学生の直入ホームステイ交流 第5期中学生のドイツホームステイ交流
平成13年 (2001)	バート市に日本式温泉施設落成 第4期中学生の直入ホームステイ交流
平成14年 (2002)	バート市訪問団来町 スーパーゲルフェスト(ホワイトアスパラガス収穫祭)開始 第6期中学生のドイツホームステイ交流
	第5期中学生の直入ホームステイ交流
平成15年 (2003)	町議会議員バート市表敬訪問 第7期中学生のドイツホームステイ交流
	交流15周年記念ドイツ訪問 バート市と直入町姉妹都市締結 交流15周年記念「炭酸泉と健康フォーラム」開催
平成16年 (2004)	
	第8期中学生のドイツホームステイ交流 日独首脳会談晩餐会で直入ラベルワインを披露
平成17年 (2005)	 <p>シュレイダー元首相と小泉元首相の晩餐会</p>
	第6期中学生の直入ホームステイ交流 バート市市昇格式典出席 第9期中学生のドイツホームステイ交流
平成18年 (2006)	バート市訪問団来竹 第10期中学生のドイツホームステイ交流
平成19年 (2007)	第7期中学生の竹田ホームステイ交流 バート市在住オペラ歌手西岡智子氏来日コンサート開催 第11期中学生のドイツホームステイ交流
	ヴィタ・クラシカに日本式建築の休憩所完成 バート市1200年記念祭式典等出席 第12期中学生のドイツホームステイ交流
平成20年 (2008)	
	バート市訪問団来竹、第8期中学生の竹田ホームステイ交流 交流20周年記念祭記念式典等開催 国際(ドイツ)映画上映会開始
平成21年 (2009)	第13期中学生のドイツホームステイ交流 城下町のドイツワイン初上陸 第14期中学生のドイツホームステイ交流
平成22年 (2010)	バート市温泉発掘100周年記念行事出席(予定) 第15期中学生のドイツホームステイ交流(予定)
平成23年 (2011)	

有由 有縁



市長コラム
〈第28回〉

1612年に初代藩主中川秀成公がこの世を去り、
そしてこの鐘が生み出された



←長崎から持ち込まれた銅鐘・サンチャゴの鐘(国指定重要文化財・竹田市立歴史資料館蔵)。中川神社の宝物として伝えられてきた。

有由有縁(ゆうゆうえん)

文豪川端康成が晩年、よく揮毫したのが『有由有縁』。人との出会いや物事との接点が生まれるのは、偶然ではなく、それなりの理由が働くからであるという意味。

昭和27年、取材旅行を兼ね、友人高田力蔵の案内で竹田市を訪れ、竹田高校で講演した川端と縁は、まさに目には見えない力だけれど、神の配剤としか思えない。

400年の時空を超えた夢とロマン

サンチャゴの鐘の音を聴きたい

この春のことでした。歴史資料館に足を運びました。その日は、どうしてもじつくりと見直しておきたいものがあつたからです。それは、サンチャゴの鐘です。歴史資料館の2階入り口の左手

ガラスケースの中で大いなる存在感を漂わせて鐘はいつも気品高く静かな光を放っているのです。見慣れているはずなのに、なぜ意識したのか。それは、春浅き頃に出版にこぎつけた『文化読本・竹田の月』に導かれたからでありました。この中に、実はサンチャゴの鐘のことに触れてくれた寄稿者がありました。竹田市出身の歌人、川野里子さんです。川野さんは市報にもたびたび登場していただいています。昨年の葛原妙子賞の受賞に加えて、今年ほかの若山牧水賞も受賞。日本を代表する若手歌人として不動の地位を築き上げておられます。

川野さんは『わが聖地としての竹田』と題して、サンチャゴの鐘のことに次のように触れています。「長崎にあつた病院の鐘であつたらうと言われているベルが、どのような経緯を辿つてこの山深い里に匿われることになつたのかは知らない。だが、この鐘を竹田に運び込んだ人々は、単なる珍品として運んだわけではなかつただろう。人々を癒すHOSPITAL、その再興をも願つたのではなかつたか。竹田に持つていけば、時代を超えて鐘は生き延び、再び人々を救う病院の鐘が鳴り響く日もくるのではないか、そんな必死の願いがあればこそ命がけでこの山里が目指されたに違いないのだ。」

私がどうしても歴史資料館に足を運びたかつたのは、この随想に宿つたロマンを追い求めていた

からにほかなりません。そして、そこで神の配剤とも言ふべき『奇跡的な気づき』に導かれたのです。それは、サンチャゴの鐘に刻まれた年号にありました。

1612——。魂が天に吸い込まれていくようでした。投げ出した私の視線はその数字に吸い込まれたまま帰つてきませんでした。なぜか。1612は、初代藩主の中川秀成公が亡くなつた年、岡藩・城下町は完成された年とされてきたわけですし、だから来年2012年がちょうど400年。いやがうえにも、この数字が記憶に鮮明に刻まれていたのです。そんなドラマチックな年に、このサンチャゴの鐘はこの世に生み出されたことになるのです。

究極の有由有縁であります。そして、このことを皆さんにお話した最初は、6月5日に開催した第2回由学館の席上でした。このとき、ご講演いただいたのが中川久定先生(18代当主)であり、その演題は「世界・豊後・竹田」。中川先生はお話の中で、「鎖国時代、長崎出島のオランダ商會を通じてヨーロッパに日本のことが紹介されており、(中略)竹田は文化的に孤立した町ではなく、ヨーロッパから注目されていた非常に意味のある町であつた」と述べられたのでした。

こうした話題が、一挙に市民の皆さんを巻き込み、そして「一度でいいからサンチャゴの鐘の音が聴きたい」との願いが膨らんでいくのでした。

サンチャゴの鐘に寄せられた多くの夢は、来年の400年祭のメイン事業となつて、世界に平和の鐘が響き渡ることを願わずにおれません。

銀座からカボス&スダチの知名度アップ

10月9日、竹田のカボスを東京銀座からPRしようと、銀座白鶴ビル8階屋上の「白鶴銀座天空農園」に今年春に植樹したカボスとスダチの収穫祭が行われ、首藤勝次市長や徳島県阿南市の岩浅嘉仁市長らが出席をしました。都会特有の夏の熱さや台風災害にもめげず、両方とも立派な実をつけており、収穫後は果汁をサンマなどに搾って、郷土の味の食べ比べをしました。

企画をした銀座社交料飲協会緑化部長の白坂亜紀さん(竹田市出身)は「カボスとスダチの魅力をこの銀座からPRしていきたい」と話していました。



↑収穫をする阿南市長、白坂亜紀GSK緑化部長、首藤市長(写真左から)

ふるさと風韻

竹田市は、夢と理想と志を思い起こさせるまちである。

竹田市出身でご活躍の先輩方に、生まれ育ったまちの空気感に思いを馳せ、自由に筆を走らせていただいた。いま自分の人生に風を吹かせながら…

題字・草刈樵峰 絵・大嶋英子



老いて想いが深まるもの、それは故郷

昭和36年、荻地区の緑ヶ丘中学校を卒業するとすぐ、自衛隊に就職したので、故郷を離れて早や50年が経ちました。

初めのうちは1年に一度、必ず帰っていたのですが、今は父母は亡く、兄弟たちは他県に移り、最近3、4年に一度の墓参りと疎遠になっています。だが、65才になった今でも、時々中学校の学生生活が夢に出てくるのですから、自分でも不思議に思っています。

5年前、60の還暦記念に同級会が荻地区で行われた時の光景は、白髪で薄くなった頭の親爺や、皺の多くなった女性たちが、45年前に戻って、あの頃の記憶を甦らせ、目は輝き、弾む心の15才の少年・少女になれたのですから、こんな素晴らしいことはありません。

当時は辛かったり、いやだった出来事も、すべてが楽しい想い出となつて語り合えるのは、本当に凄いことです。

自衛隊生活の40年間では、北海道から九州の各地に勤務し、それぞれの気候風土を体験したため、終着地点を東北南部、つまり、まあまあ暖かくて台風の少ない仙台、福島辺りが生活環境に最適と考えて、仙台近郊に

永住することにしたのです。

ところがこの3月、4月と連続して、100年に一度あるかないかの震度7の大地震に遭遇したのは、まったくの予想外でした。

3月11日の大地震の時は、仙台市内のビルの8階でお客さんと話中で、あまりの揺れの大きさに二人とも机の下に潜り、放り出されないように机脚をしっかりと握っていたのです。大揺れが2、3分も続いたので、ビルは倒れるものと思ひ、あきらめ半分、天の神様に命を託すしかない、などと勝手に決めていました。

今年は日本各地で、大きな災害が続発しているように思われます。特に9月の奈良・和歌山県の山村を襲った、これまでにない集中豪雨で発生した土砂災害は、山の半分を一度に崩れ落として、数キロにも土砂を流し、集落を飲み込んだのです。

この映像を見た時には、まさに生まれ育った故郷の地形そのものを思い出し、衝撃を受けました。

竹田地域の山・崖や谷・川の傍に住んでいる人たちは、今一度、危機意識を持ち直し、いざという時の避難要領を、ご家族

一人ひとりに徹底しておくことが必要ではと感じています。また行政に携わる方々には、国や県の支援を受けて、より効果的な災害対策を進めるようお願いしたいものです。

一昨年、昨年と年末近くに、NHKで司馬遼太郎さんの小説「坂の上の雲」が放映され、旅順口封鎖の任務中に、戦死した広瀬武夫海軍中佐が出た時には、子どもの頃何度か訪れた広瀬神社を思い出し、懐かしく感じたものでした。

今年の3月、10年勤めた第二の職場、自動車損害保険会社を定年退職し、5月には仕事の傍ら、数年間手がけていた時代小説「天保同心・追跡の果て」を彩図社から発刊することができました。

一般的な娯楽本で、延岡・唐津・竹田などでの場面もあり、身近に感じて読んでいただけられるのではないかと思っています。関係者のご配慮で、竹田市の図書館に置いてありますので、時代小説に興味のある方に読んでいただければ幸いです。

こんな寄稿文を書いていらっしゃるに、次回竹田に帰ったら、子どもの頃に行った想い出の場所を探訪したい気持ちになつてしまいました。



ペンネーム：^{かつらぎ}桂儀 ^{いっこう}一光 (本名：合澤 八千穂)

略歴

- 1946年 竹田市荻地区桜町南生まれ
荻小学校・緑ヶ丘中学校卒業
- 1961年 横須賀の陸上自衛隊少年工学校に入隊
(現：高等工学校)
主にヘリコプターの操縦(約5000時間)及び運用
北海道・東北・関東・関西・九州の各駐屯地で勤務
- 2001年 三井住友海上火災保険(仙台)就職
自動車事故賠償担当
- 2011年 フリーライター (実態は年金生活というところです)



↑ 5年前に行われた緑中36年卒同級会



郷土の植物

(272)

阿孫 久見

第80回

コケモモ (ツツジ科)

山地の日当たりのいい草地や疎林内に生育する高さ10センチほどの直立する常緑小低木です。生育地では絨織を敷いたように群落をつくります。互生する葉は全縁（鋸歯がない）で小さな小判みたいな倒卵形で、長さ2センチ、幅が1センチほどです。

初夏の頃、枝の先にやや紅色を帯びた径8ミリほどの白色の4裂する釣鐘状の花をつつむき加減に数個咲かせます。秋には径6ミリほどの液果を赤

熟させます。果実は甘酸っぱいですが食べられません。コケモモのように背丈が低く密集して生え、赤い実をつけるので苔桃の名があります。竹田では、くじゅう山系の火山群山頂帯の風の強い風衝地で観察される高山植物です。とても貴重なので「九重山のコケモモ群落」として国指定の天然記念物です。また大分県の絶滅危惧種です。花期は6月です。

おくすく
1歳



平成22年11月生まれ

誕生日 親
(自治会)

平成23年12月に1歳の誕生日を迎えるお子さんの写真を募集します！

問 秘書広報係
03-3-11043

精神の鍛錬を続ける94歳

森河 至さん (飛田川田原)

大正6年7月22日生まれ。錬士5段。弓道歴は約30年。『弓の心は、人の心』を信条に、毎日弓道場に足を運び、1本1本大事に弓を放つ至さん。

また先日公式大会において『皆中』(※)を達成し場内を沸かせたという程、その腕前は健在です。(※4本の矢を放って4本と目的的中すること)

弓道の魅力を尋ねると「奥深いところかな」と笑顔。これからも現役バリバリ宣言でいきましょー！



現役
バリバリ
宣言!

広報だけだ

No.80 平成23年11月1日発行 ■発行/竹田市役所 [URL] <http://www.city.taketa.oita.jp> E-mail taketata@city.taketa.lg.jp
■編集/総務課秘書広報係 〒878-8555 大分県竹田市大字会々1650 ☎63-1043 ■印刷/いづみ印刷

今回の東日本大震災の影響により再生紙の入手が困難になっております。ご了承ください。



たけたん

本 庁 ☎0974-63-1111
 荻 支 所 ☎0974-68-2211
 久住支所 ☎0974-76-1111
 直入支所 ☎0974-75-2211

竹田市文化連盟「秋季芸能祭」

唄と踊りの祭典「秋季芸能祭」が開催されます。今年
 は26演目を上演。ゲストに竹田高等学校器楽部を迎え、
 心のもった演奏で会場を盛り上げます。フィナーレは
 竹田おどり（新竹田甚句）を予定しています。

また、ロビーで「おし花」と「書」の展示と竹田高等
 学校器楽部の活動のビデオ上映・写真展示も合わせて行
 います。

日 時 11月13日(日) 11:00開演
 場 所 竹田市文化会館大ホール
 入場料 無 料

●お問い合わせ 竹田市文化連盟事務局(竹田市文化会館)
 ☎63-2734

第12回たけた竹灯籠「竹楽」^{ちくらく}

日 時 11月18日(金)～20日(日) 16:30点火
 場 所 竹田市城下町界隈

●お問い合わせ NPO法人里山保全竹活用百人会
 ☎63-2638

TAOふるさと凱旋公演

竹田でしか観られない 年納め「ふるさと」公演!

日 時 12月25日(日)
 15:00開場 / 15:30開演

会 場 竹田市文化会館大ホール
 入場料 指定席4,000円
 自由席3,500円 (高校生以下2,000円)

※チケットの半券でワークショップの観覧ができます。
 (参加者の募集は別途行います)

【交流ワークショップ】

日 時 12月26日(月) 10:00～13:00
 会 場 竹田市文化会館大ホール

●お問い合わせ・チケット窓口 ほていの湯 ☎77-2680
 主催 / TAO竹田公演実行委員会
 後援 / 竹田市・竹田市教育委員会ほか

歴史資料館

☎63-1923

〔開館時間〕 9:00～17:00

〔休 館 日〕 月曜日。祝日の翌日 (月曜日が祝日の場合
 は開館)

○常設展 (2階展示室B)

『田能村竹田と高橋草坪・帆足杏雨』

11月18日(金)～12月28日(水)

画聖田能村竹田とその高弟高橋草坪と帆足杏雨の館蔵
 作品を紹介します。

○秋季企画展 2階展示室A・B

『岡藩の絵師たち—淵野家と渡邊家—』

10月15日(土)～11月13日(日)

岡藩の代表的な絵師であった淵野家(真斎・天香・香
 斎・桂儼)と渡邊家(蓬島・拈華)の人々の作品を通じて、
 藩政時代の竹田で花開いた多様な絵画やその歴史的・文
 化的背景を紹介します。

11月15日(火)～11月17日(木)まで展示替えのため臨時休
 館いたします。ご迷惑をおかけしますがよろしくご了
 承ください。

市民ギャラリー水琴館

☎63-2200

〔開館時間〕 9:00～17:00

〔休 館 日〕 月曜日。祝日の翌日 (月曜日が祝日の場合
 は開館)

○『第11回二九志乃会作品展』

10月25日(火)午後～11月6日(日)

(佐藤昭次 ☎63-1317)

○『第47回大分県美術展写真展巡回展』

11月8日(火)午後～11月13日(日)

第47回大分県美術展写真展に入選した優秀作品を展
 示。(後藤俊治 ☎68-2645)

○『第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭特 賞展示』

11月15日(火)～11月20日(日)

第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭特賞
 作品56点の展示。(生涯学習課 ☎63-4817)

○『文人南画展示会 静観』

11月22日(火)午後～11月27日(日)

竹田地方の南画家(田能村直入、田近竹邨、帆足杏雨、
 草刈樵谷ほか)を中心に約60点展示。

(後藤建一 ☎090-4347-2436)

※休館日は、月曜日 (月曜日が祝日の場合は開館) と祝
 日の翌日です。

※なお、展示内容の詳細を知りたい方は、申込者へ直接
 お問い合わせください。

-----キ-リ-ト-リ-セ-シ-ン-----

国指定史跡岡城跡

家族無料観覧券

有効期限 11月19日(土)～11月27日(日)
 竹田市教育委員会文化財課

月 間

11月は「児童虐待防止推進月間」です

平成23年度推進月間標語

『守るのは 気づいたあなたの その勇気』

児童虐待に関する相談対応件数は依然として増加しており、特に子どもの生命が奪われるなど重大な事件も後を絶たない状況において、児童虐待問題は社会全体で解決すべき重要な課題となっています。

このため、11月を児童虐待防止推進月間と定め、家庭や学校、地域など社会全般にわたり、深い関心と理解が得られるよう取り組みを推進することとしています。

児童虐待について見たり、聞いたり、不審に思われる場合は、児童相談所や福祉事務所へご連絡をください。連絡いただいた方の個人情報、秘密事項は厳守します。

●ご連絡・お問い合わせ

児童相談所全国共通ダイヤル (☎0570-064-000)

大分県中央児童相談所 (☎097-544-2016)

竹田市福祉事務所 (☎63-4811)

全国一斉「女性人権ホットライン」強化月間

日 時 11月14日(月)～20日(日)

平日/8:30～19:00 土・日/10:00～17:00

相談内容 夫やパートナーからの暴力、職場でのセクシャルハラスメント、つきまとい(ストーカー)、その他の人権問題

※秘密厳守。お気軽にご利用ください

電話番号 0570-070-810 ※電話相談のみ

担当者 人権擁護委員、法務局職員

●お問い合わせ 大分地方法務局人権擁護課

☎097-532-3368

12月4日～10日は「第63回人権週間」

人権啓発強調テーマ

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

◇人権なんでも特設相談所

12月5日(月) 10:00～15:00

【竹田地域】竹田市総合社会福祉センター (☎63-3360)

【荻地域】福祉健康エリア (☎68-3050)

【久住・直入地域】久住支所会議室 (☎76-1111)

ご相談案内

親子、夫婦、扶養、相談、借地、借家、名誉、信用、差別、いじめ、虐待、DV、私的制裁、公害等の人権問題を法務局や人権擁護委員が相談に応じています。

相談は無料で、むずかしい手続きも必要なく、秘密は固く守られます。

●お問い合わせ 大分地方法務局竹田支局 竹田人権擁護委員協議会 ☎62-2315

国指定史跡岡城跡 家族無料観覧券

登城時にこの券を提出してください。

1枚につき、1家族が1回に限り無料で観覧できます。

●お問い合わせ 竹田市教育委員会文化財課 ☎63-4818

防 災

『消したはず 決めつけないで もう一度』
防火標語 (平成23年度全国統一防火標語)

11月9日～15日は「平成23年度秋季全国火災予防運動」を実施します

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図り、火災による死傷者及び財産の損失を防ぐことを目的として、毎年「119番の日」である11月9日から毎年実施されているものです。

今回の火災予防運動では、平成23年6月に住宅用火災警報器の設置が全国で義務化されたことから、未設置世帯に対する働きかけ及び適切な維持管理に関する周知をはじめ、住宅火災による死者の発生防止対策の要点をまとめた「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」を活用し、総合的な住宅防火対策の推進を行います。あなたの住宅にも、住宅用火災警報器の取り付けが義務付けられています。

◎取りつけましたか？

住宅用火災警報器設置は義務です！

「まさか！」の火事。火災警報器で助かる命があります

住宅火災100件当たりの死者数 (平成20年～平成22年)	
火災警報器設置なし	7.6人
火災警報器設置あり	5.1人 ←33%減

消防庁資料

- ・火事は決して他人事ではなく、どこの家庭にも起こりうることです。
- ・万が一の時でも、火災警報器があれば いち早く火災を知らせてくれます。

◎警報が鳴ったら？

火災の時◆大きな声で知らせましょう。◆避難しましょう。◆119番に通報を。可能なら初期消火を。

火災ではない時◆火災ではないのに火災警報器が鳴る場合があります。警報停止ボタンを押すか、ひき紐を引いて警報を止めてください。

⑧ 悪質な訪問販売には十分注意をしてください！

【住宅用火災警報器推進団体】 竹田市自治会連合会
竹田市消防団 婦人防火クラブ 竹田市消防本部 署

「住宅防火 いのちを守る 7つのポイント」

◆3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

◆4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

●お問い合わせ 竹田市消防本部警防課 ☎63-0119

人権擁護

平成23年9月30日で任期満了となった竹田市人権擁護委員の再任1名と新人1名の推薦について、9月議会において適任と決定された次の2名の方に、10月1日付けで法務大臣から委嘱状が交付されました。

平成23年10月1日付委嘱人権擁護委員名簿

氏名	住 所	委員区分
御香貞則	竹田市直入町大字長湯758番地1	再任
熊野一男	竹田市荻町政所935番地	新任

◎委員の使命（人権擁護委員法第2条）

人権擁護委員は、憲法で保障されている国民の基本的な人権、即ち国民が国家社会において幸福な生活を営むために必要な人間としての権利が侵犯されることがないように監視し、もしこれが侵犯された場合は、その救済のため、すみやかに適切な処置を採るとともに、常に自由人権思想の普及高揚に努めることを使命とします。

◎委員の職務（人権擁護委員法第11条）

人権擁護委員は、上記の使命を果たすために、自由人権思想の啓発運動を行うとともに、民間における人権擁護運動の助長に努め、仮に人権を侵犯する行為が発生した場合には、被害者救済のために調査及び情報の収集を行い、法務大臣への報告、関係機関に対する勧告等適切な処置を講ずることになっています。また、貧困者対しては、訴訟援助等の手続きを講じる等、国民の人権擁護の任に当たることになっています。

●お問い合わせ 竹田市人権・同和对策課 ☎63-4820

年金

「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」が発行されます ～年末調整・確定申告まで大切に保管を！～

国民年金保険料は、所得税及び住民税の申告において全額が社会保険料控除の対象となります。その年の1月1日から12月31日までに納付した保険料が対象です。

この社会保険料控除を受けるためには、支払ったことを証明する書類の添付が義務付けられています。

このため、平成23年1月1日から9月30日までの間に国民年金保険料を納付された方については、「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」が本年11月上旬に日本年金機構本部から送付されますので、年末調整や確定申告の際には必ずこの証明書（又は領収証書）を添付してください。

また、10月1日から12月31日までの間に今年をはじめ国民年金保険料を納付された方については、来年の2月上旬に送付されます。

なお、ご家族の国民年金保険料を納付された場合も、ご本人の社会保険料控除に加えることができますので、ご家族あてに送られた控除証明書を添付のうえ申告してください。

「社会保険料（国民年金保険料）控除証明書」についてのご照会は、控除証明書のはがきに表示されている年金事務所へお問い合わせください。

●お問い合わせ 日本年金機構大分年金事務所
☎097-552-1211

農業

“ふるさとの味”贈りませんか？

「奥豊後竹田ふるさと友の会」では、今年も皆さんに喜んでいただける竹田の産物をたくさんご用意いたしました。遠く離れた友人、知人に竹田のおいしい名水と澄んだ空気が育んだ安心の味と、懐かしい竹田の味を贈ってみませんか？一度口にすれば忘れられなくなるものばかりです。お歳暮としてもご利用頂いております。今年度12月分宅配予定の品目は次のとおりです。

◎冬の便（12月8日発送）

かぼす・香り米・切干し大根・手作り味噌・大豆の水煮・もち（餡なし）・あられ・きな粉・干し椎茸・こんにやく・ひろみの具（混ぜご飯の具）・ちよろぎ・竹田のお菓子3種（竹田饅頭ほか）・箸袋（工芸品） ※都合により品物が変更になる場合があります

募集要項（冬の便）

◎金額 1口 4,500円 送料、箱代込み

◎申込期限 平成23年11月29日(火)まで

◎申込先 「奥豊後ふるさと友の会」事務局

- ・竹田市役所農政課（☎63-4805 FAX63-3990）
- ・荻支所産業建設課（☎68-2215 FAX68-2815）
- ・久住支所産業建設課（☎76-1116 FAX64-3107）
- ・直入支所産業建設課（☎75-2215 FAX75-2084）
- ・農村商社わかば（☎66-3553 FAX66-3552）

※土日はFAXのみの受付

◎申込方法

上記申込先に所定の申込用紙を提出の上、直接金額をお支払いください。または、専用の郵便局振込用紙もご利用いただけます。

消費生活相談

消費生活相談窓口からの注意喚起—内職商法について—

「在宅ビジネスで高収入」などとインターネット上の広告や、チラシ広告などで希望者を集め、仕事のために必要だとして高額な機材や検定試験のための教材を買わせる商法です。実際には仕事はほとんどなかったり、対価が支払われないなどのトラブルが多くなっています。内職はほとんどが出来高制のため、収入は保証されていません。そのような業務に対し事前に『登録料』や『商品売買代金』など多額の金銭を支払う事は大きなリスクとなります。契約する際は業者の信用性などをよく調べましょう。事前に高額な支払いを要求するようなところは要注意です。

●お問い合わせ 竹田市市民課消費生活相談窓口
☎63-4834 ・8:30～17:00（月～金・平日のみ）
大分県消費生活・男女共同参画プラザ（アイネス）
☎097-534-0999

竹田市のこよみ 11月 2011年

1 (火)	・第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭8:30-17:00 (竹田市体育センターほか)～4日まで ・田能村竹田177祭9:00-17:00 (旧竹田井田聖堂)～3日まで ・『第11回二九志乃会作品展』9:00-17:00 (竹田市民ギヤラリー水琴館)～6日まで ・おはなしのへや10:30-11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)・こころの健康相談13:30-15:30 (教福祉健康工房)：要予約 (☎63-3346)
2 (水)	・第14回直入愛育まつり・見てみてクレーンコンテスト8:30～(直入総合運動公園中央グラウンド) ・陽目の里「名水茶屋」休業日・ポリオ予防接種14:00-15:00受付(いきいき交流センター)
3 (木)	・第6回トマト天国inおぎ・第32回荻ふるさと祭り9:00-16:00 (荻福祉健康エリアグラウンド・屋内多目的運動場ほか) ・市立荻小学校グラウンド)・第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭表参式10:00～(竹田市文化会館大ホール)・竹田市総合社会福祉センター)
4 (金)	・第12回農業委員会総会9:00～
5 (土)	・第44回荻地域女子バレーボール大会 9:00-16:00 (第7回社会福祉大会「福祉まつり」9:30～(竹田市総合社会福祉センター) ・アーサー・ヒナード&木坂涼講演会13:00～(但馬屋老舗「秋山蔵版画館大ホール」)
6 (日)	・第7回竹田市長旗争奪アートボール大会8:30～(直入総合運動公園中央グラウンド)・第39回荻地域男子バレーボール大会9:00～・九重野1N緑木森林公園祭り10:00～(竹田市九重野・緑木森林公園(緑木神社周辺))・妻リコーダーアンサンブル第7回定期演奏会13:30～(くじゅうサンホール)
7 (月)	・荻の里温泉旅館日
8 (火)	・久住地域人権教育総合推進研究会(久住中学校・久住小学校・白丹小学校・久住公民館)・『第47回大分県美術展覧会巡回展』9:00-17:00 (竹田市民ギヤラリー水琴館)～13日まで・おはなしのへや10:30-11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)・こころの健康相談13:30-15:30 (竹田古町会場) (☎63-3346)
9 (水)	・陽目の里「名水茶屋」休業日・妊婦歯科検診13:00-13:10受付(竹田市総合社会福祉センター)・3歳児健康診査13:00-13:20受付(竹田市総合社会福祉センター)
10 (木)	・なかよし幼稚園パートII (市内公立幼稚園3園合同) 10:00-13:00 (南部小学校体育館)・竹田温泉「花水月」旅館日
11 (金)	・「協調学習」発表会9:00-15:00 (竹田小学校)・おも城サイトミュージアム13:00～(岡城跡駐車場) ※要予約：文化財課☎0974-63-4818・くじゅう花公園 竹田市民無料公開日 17:00-20:00
12 (土)	・第13回市長旗争奪竹田名水少年剣道大会8:40～(竹田市体育センター)・豊肥子牛市場 9:30～・童謡と絵本の会10:00-11:30 (佐藤義美記念館〔このころのおうち)・地域医療講演会14:00-16:00 (講師) 大分大学医学部 宮崎英士先生 (竹田市総合社会福祉センター)
13 (日)	・竹田市まごころ会【用作公園】花水月前9:00集合 ※1・第30回竹田市紅葉まつり弓道大会8:30～(竹田高等学校弓道場)・第35回直入地域ふるさと振興祭9:00-14:00 (直入支所前イベント会場ほか)・歌謡四季の会歌の交流会9:30-15:00 (くじゅうサンホール) ※入場無料・平成23年度空飛ぶ100人プロジェクト【2回目】11:00-14:00 (竹田市直入総合運動公園野球場) ・竹田市文化連盟秋季芸能祭11:00-15:00 (竹田市文化会館) ※入場無料
14 (月)	・荻の里温泉旅館日
15 (火)	・『第63回画聖「田能村竹田」先生をしのぶ美術祭特賞展示』9:00-17:00 (竹田市民ギヤラリー水琴館)～20日まで ・おはなしのへや10:30-11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)・【納期限】個人事業税2期
16 (水)	・温泉療養文化館「御前湯」旅館日・陽目の里「名水茶屋」休業日・年金相談10:00-15:00 (竹田市高齢者いきいき交流センター)・3・6・12か月児健康診査13:00-13:20受付 (13:30-13:40受付 ※3か月児のみ) (竹田市総合社会福祉センター)・大分県行政書士会無料相談会13:00-16:00 (大分県行政書士会〔大分市〕)・こころの健康相談13:30-15:30 (直入保健福祉センター)：要予約 (☎63-3346)

※行政相談に関するお問い合わせは、行政相談委員まで(小河晴義 ☎ 62-3662、太田正一 ☎ 68-2480、渡辺善照 ☎ 77-2067、斉藤義昭 ☎ 75-2692)

古文書実践講座受講生募集

大分県立先哲史料館の協力で、古文書の基礎と扱い方、解読の基礎や整理の方法を学ぶ「古文書実践講座」を開講します。地域や家に伝えられた史料(古文書など)や地域の歴史に関心をお持ちの方々のご参加をお待ちしています。

第1回…11月26日(土)、第2回…12月3日(土)、第3回…12月10日(土)、第4回…12月17日(土)

・時間は第1回 13:30～17:00、第2～4回 13:30～16:50です。
・時間の構成は、先哲史料館研究員による講義、歴史資料館職員による演習(岡藩古文書の読解)となっています。

会場 市民ギヤラリー水琴館会議室
募集人員 20名(先着順)

受講料 無料

●お申込み・お問い合わせ 竹田市立歴史資料館 ☎63-1923
市民ギヤラリー水琴館 ☎63-2200

17(木)	竹田温泉「花水月」休館日	
18(金)	第12回たけた竹灯笼「竹楽」15:30-21:00 (竹田市城下町界隈)	
19(土)	四原一揆200年祭12:45-16:00 (荻福祉健康エリア) 第12回たけた竹灯笼「竹楽」15:30-21:00 (竹田市城下町界隈)	
20(日)	家庭の日・第12回たけた竹灯笼「竹楽」15:30-21:00 (竹田市城下町界隈) 晩秋の豊肥路ゆっくりウォーク	日時 11月20日(日) ①コース(21km) 竹田市役所前12:00スタート ②コース(15km) JR緒方駅前13:30スタート ③コース(5km) JR豊後竹田駅前15:45スタート 参加費 大人500円・高校生以下200円 申込期限 11/16(水)締切 ○お問い合わせ 竹田ウォーキング協会(☎090-8831-0987)
21(月)	豊肥成牛市場 9:30～・平成23年度給与所得の年末調整説明会【久住・直入・萩】14:00-15:30 (竹田市役所3階会議室)	
22(火)	『南画展示会 静観』9:00-17:00 (竹田市民ギャラリー水琴館)～27日まで・平成23年度給与所得の年末調整説明会【竹田地域】10:00-11:30 (竹田市役所3階会議室) おはなしのへや10:30-11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)・こころの健康相談13:30-15:30 (竹田市総合社会福祉センター)：要予約 (☎63-3346) 平成23年度給与所得の年末調整説明会【竹田地域】14:00-15:30 (竹田市役所3階会議室)	
23(水)	勤労感謝の日・第2回廣瀬武夫杯争奪少年柔道大会 9:30～ (竹田市体育センター) 竹田市歩こう会【岡城散策】広瀬神社9:30集合 ※1 姉妹都市ドイツ・バートクローン温泉発掘100周年記念式典・陽目の里「名水茶屋」休業日	
24(木)	こころの健康相談13:30-15:30 (久住保健センター)：要予約 (☎63-3346) 竹田温泉「花水月」休館日	
25(金)	おも城サイトミュージアム13:00～ (岡城跡駐車場) ※要予約：文化財課 (☎63-4818)	
26(土)	白丹保育所発表会9:00～ 童謡と絵本の会10:00-11:30 (佐藤義美記念館「このこのうち」)	
27(日)	第65回竹田市駅伝競走大会10:00～ (直入公民館～久住～城原～飛田川～竹田市文化会館) 第2回就職セミナー&合同企業面接会「福祉のお仕事編」13:30-16:30 (竹田市文化会館大会議室ほか)	
28(月)	萩の里温泉休館日	
29(火)	おはなしのへや10:30-11:00 (竹田市立図書館えほんのへや)	
30(水)	陽目の里「名水茶屋」休業日・5歳児健康診査13:00-13:20受付 (竹田市総合社会福祉センター) 【納期限】・固定資産税4期・国民健康保険税5期・介護保険料、後期高齢者医療保険料5期	
月間	第14回竹田市菊花展9:00-16:30 (竹田創生館) 11/1～6・久住高原光ファンタジア (くじゅう花公園) 11/12(土)～12/25(日) 17:30点灯 文化財管理センター開所式 10:00～ 12/2(金) 岡の里ふるさと歴史講座(文化財探訪)「竹田地域の石橋散策」竹田市文化会館850集合 (講師) 広田敦、仲村陸雄※2 12/3(土) 第38回竹田市少年少女駅伝ロードレース大会9:40スタート (竹田市総合運動公園陸上競技場周回コース) 12/3(土) 第7回歳末助け合いチャリティショー (竹田市文化会館大ホール) [午前の部] 9:30～13:00 [午後の部] 12/3(土) 竹田市立歴史資料館常設展『田能村竹田と高橋草平・帆足杏雨』11/18(金)～12/28(水) 竹田市立歴史資料館秋季企画展『岡藩の総師たち～淵野家と渡邊家～』10/15(土)～11/13(日) 世界糖尿病デー 11/14『世界糖尿病デー』主催：大分県糖尿病看護指導士会 10:00～14:00 (道の駅おおの) 11/13(日) 血糖測定、血圧測定、栄養・薬物相談などを行います ④天心堂おおの診療所 (☎0974-34-3331)	
その他	児童虐待防止推進月間・労働保険適用促進月間・税を考える週間 11/11～17・人権週間 12/4～10	

※1 竹田市歩こう会 ☎62-2501 (山本)
 ※2 竹田創生館 ☎62-4100

農業委員会事務局農地係からのお知らせ
 ・11月は農地パトロール(各地区ごと)月間です・農地に係る各種申請受付の締め切りは、毎月15日です(15日が土日の場合は直前の金曜が締切日となります)。
 ●お問い合わせ 竹田市農業委員会事務局 ☎63-4815

福祉

プレママ・プレパパスクールを開催します！

出産・育児不安の解消や妊娠期からの子育て支援とのつながりづくりのため、子育てハッピースタート推進事業〔プレママ・プレパパスクール〕の講座を開催します。

■講座日時・内容

①プレパパ講座

◇日時 11月5日(土) 9:30～11:30
1月21日(土) 9:30～11:30

◇内容 「ママを支える心構え」(講師:おおいたパパくらぶ)
・出産前後のサポート・グループワーク(交流会)等

②プレママ講座

◇日時 12月10日(土) 9:30～11:30
2月18日(土) 9:30～11:30

◇内容 「赤ちゃんを迎える心の準備」(講師:大分県助産師会)
・新生児の保育・妊婦さんの心と体の変化
・グループワーク(交流会)等

■場所 ①②両講座とも「竹田っ子すこやか広場」
(南部幼稚園隣)

■対象者 初めてママやパパになられる方(第2子以降のママ・パパ、祖父母の方などご家族も受講できます)

■定員 両講座とも20名(申込先着順)

■参加料 両講座とも無料

■託児 当日、託児を希望される方は、申込み時にお申し出ください。

■お申し込み・お問い合わせ

「竹田っ子すこやか広場」(☎63-1104)

竹田市福祉事務所子育て支援係(☎63-4811)

第7回歳末助け合いチャリティーショー

日時 12月3日(土)
午前の部 9:30開演(8:30開場)
午後の部 14:30開演(13:30開場)

場所 竹田市文化会館大ホール

※各自治会・各種団体・福祉団体が協力券(1枚500円)を販売しています。入場の際は必ず協力券をお持ちください。協力券をお持ちでない方も当日券(1枚500円)を用意しています。

●お問い合わせ 竹田市社会福祉協議会 ☎63-1544
竹田市福祉事務所 ☎63-4811

講座

平成23年度大分県地域防災リーダー養成講座

目的 地域防災の中心となる人物の養成を図るため実施

会場 大分県庁舎新館14階大会議室

時間 第1日目 平成24年2月18日(土) 9:30～16:35
第2日目 平成24年2月19日(日) 9:45～16:35
第3日目 平成24年2月26日(日) 9:45～15:35
※全3日間の受講が必要

地震・津波、土砂災害、風水害、ボランティア活動、図上訓練など様々な講目を受講いただきます。

※第3日目の終了後、希望者には防災士資格取得試験があります。(なお、防災士の資格取得には上記講義のほか自習レポート及び普通救命講習の受講を個別に実施していただく必要があります)

定員 100名(受講決定通知、教本は申込期間終了後送付予定)

講義内容(一例)「地震・津波の被害について」「大分県内に関わる歴史地震について」「身近でできる防災対策について」「災害図上訓練(DIG)」「大分県の気象特性と防災情報の活用について」「土砂災害対策について」「風水害対策について」等

申込締切 11月25日(金)

その他 受講料は無料。防災士の資格認証を希望する方は別途受験料3,000円と認証登録料5,000円が必要(受講決定時に資料をお送りします)

●お問い合わせ

竹田市総務課行政係 ☎63-1111(内線213)

相談

平成23年度視覚障がい教育相談(巡回相談)

大分教育委員会では、視覚に障がいのある幼児児童生徒及びその保護者等に対しての巡回教育相談会を実施いたします。どうぞお気軽に相談にお越しください。

日時 平成23年12月8日(木) 10:30～15:00

会場 豊後大野市中央公民館

内容 視覚障がいのある幼児児童生徒の家庭での接し方、保育、教育、医療に関すること等

対象 視覚障がいのある幼児児童生徒及びその保護者または関係者(保育士、教員等)

申込み方法

竹田市教育委員会学校教育課に「視覚障がい教育相談票」がありますので、必要事項を記入の上、お申し込みください。

申込締切 平成23年11月11日(金)

●お問い合わせ(相談担当者)

大分県立盲学校 教育支援部 ☎097-532-2638

税金

固定資産税の申告・届出について

◎固定資産税は、毎年1月1日の時点で土地・家屋・償却資産を所有している方(土地・家屋は、登記簿上の所有者)にかかります。

◎土地・家屋を年の途中で売買した場合でも、その年の12月末までに所有権移転の登記手続がなされない場合は、前所有者の方に翌年度の税金がかかります。登記手続についてもお忘れなくお願いします。

1. 住宅用地の異動申告

現在、住宅が建っている土地(住宅用地)については、固定資産税が軽減されています。住宅の取り壊し等で、住宅用地でなくなった場合や新たに住宅用地になった場合等、住宅用地に異動があった時は、市税条例第74条にて届出することが定められています。

申告の期限は平成24年1月31日(火)になっています。必ず申告をお願いします。

申告内容は、所有者(住所・氏名)・住宅用地(所在・地積)・家屋(所在・所有者・床面積等)となっています。

2. 土地・家屋の異動届

土地の地目を変更した場合、又は家屋を新增築・取り壊した場合は、すみやかにご連絡をお願いします。(法務局にて登記をされた方は連絡する必要はありません)

●お問い合わせ 竹田市税務課資産係 ☎63-1111
(内線123・124・128)

「個人事業税」第2期の納期限は11月15日(火)

納期限が近づいてまいりました。忘れずに納めましょう。なお、納税には便利な口座振替制度をご利用ください。

●お問い合わせ

大分県豊後大野県税事務所 ☎0974-22-7501

農業委員会からのお知らせ

農地利用状況調査(農地パトロール)を農業委員による10班編成で11月に実施します。

この調査は、農地法の規程により毎年実施しています。

なお、法律改正により、農地利用状況調査と耕作放棄地全体調査を一体的に実施することになりました。

皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

●お問い合わせ 竹田市農業委員会 ☎63-4815

催し

アーサー・ビナード&木坂涼講演会

2人のジョイントトークをお楽しみください

日時 11月5日(土) 13:00～15:30 ※入場無料

場所 但馬屋老舗「秋山巖版画館ホール」

内容 「もしもプラトニウムがなかったら」
～詩と絵本と今の日本列島の話～

●お問い合わせ おはなしルーム ☎62-4058

「税を考える週間」記念講演会

日時 11月11日(金) 15:00～16:00 (14:30開場)

場所 竹田商工会館2階ホール ※聴講無料

演題 「乱世を生きぬく経営人間学」

講師 税理士 赤川治之氏(赤川治之税理士事務所長)

●お問い合わせ (社)竹田法人会事務局 ☎64-0042

九州矯正展

日時 11月19日(土)・20日(日)

場所 大分刑務所(大分市大字畑中303番地)

内容 刑務作業製品展示販売、所内見学、刑務作業体験・実演コーナーほか

●お問い合わせ 大分刑務所 ☎097-546-3153

岡の里ふるさと歴史講座(文化財探訪)

日時 12月3日(土) 8:50竹田市文化会館集合

内容 竹田地域の石橋の散策、山王橋、宮瀬橋等

講師 500円

●お申込み・お問い合わせ 竹田創生館 ☎62-4100

国民健康保険

交通事故にあったときは届出を

交通事故や傷害事件など、第三者(加害者)の行為によりけがをした場合で、保険証を使って治療を受けようとするときは、保険課又は各支所いきいき市民課に届け出をしてください。

〔届け出に必要なもの〕

①保険証 ②印かん ③事故証明書(交通事故の場合)

※国保に届け出る前に、加害者から治療費を受け取ったり示談を済ませたりすると、国保が使えなくなることがあります。

●お問い合わせ 竹田市保険課 国保・高齢者医療係
☎63-1111 (内線135・136・137)

募集

平成24年度農業研修生募集

竹田市内での就農を支援するために、後継者や新規就農希望者を研修生として募集します。

実際に耐候性ハウス施設圃場(トレーニングファーム)を使用してトマト栽培の勉強をすることができます。

研修期間 約2年間 平成24年は4月～12月(トマト栽培期間)

研修場所 竹田市荻町

研修要件

- ・竹田市内で就農可能な方(通勤の可能な方)
- ・研修終了後、市内でトマト部会員として就農できること
- ・概ね50歳以下の健康で農業に対する意志と意欲のある方

募集人数 3名程度(選考採用)

その他 期間中は研修生1名あたり、研修費(月10万円程度)を支払う予定

●お問い合わせ トマト学校 ☎090-8917-3795

水土里ネット大分県南部事務所 ☎0974-22-1744

豊肥振興局生産流通部 ☎0974-63-3177

竹田市農政課 ☎63-4805

求人

ハローワーク豊後大野竹田職業相談室 ☎63-1101

①営業1人20～25万 ②ダンプカー運転手1人20万
③販売員1人13～20万 ④事務員1人13～14万 ⑤
看護員2人15.5～30万 ⑥警備員5人13.2～17.6万
⑦調理員2人11.9～12.3万 ⑧店長候補1人16～
19.1万 ⑨正看護師3人21.6～27万 ⑩保育士2人
15.2万円 ⑪自動車整備員1人13～18万 ⑫介護職2
人13～17.5万円

〔パート求人(時給)〕

⑬清掃員1人650～700円 ⑭接客及び調理補助1人
650～700円 ⑮販売員2人809円 ⑯検針員1人916
円 ⑰ホール係1人1200～1500円 ⑱調理補助・食
器洗浄1人700～800円 ⑲清掃員3人700～720円
⑳レジ係1人680円 ㉑調理補助・接客係1人800円
㉒タクシー乗務員2人647～700円 ㉓ホームヘル
パー1人1100～1200円 ㉔正・准看護師2人1000～
1200円

【訂正】

・広報たけた10月号3頁1行目「～松本分館の床改修に加え、」とありましたが削除してください。

・広報たけた10月号21頁の『ぼくたち・わたしたちの学び舎』の中で1段10行目に「去年7月10日」とありましたが、正しくは「去る7月10日」でした。訂正致します。(秘書広報係)

休日及び夜間の在宅当番医

大久保病院 ☎64-7777

受付時間 平日夜間 18:00～21:00
土曜日 13:00～21:00
休日 8:30～21:00

注意事項 ・かかりつけの病院がある場合は、できるだけそこで診てもらおうようお願いします。
・事前に症状、年齢、その他必要事項を病院へ電話連絡したうえで受診をしてください。
・症状が重い場合は救急車を呼んでください。
※竹田医師会病院でも電話で相談いただき、可能な場合は診療します。

小児科外来休日当番院

当番日	医療機関	電話番号
11月3日(木)	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
11月5日(土)	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
	三重東クリニック(三重町)	0974-22-6333
11月6日(日)	竹田こども診療所	0974-63-3838
	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
11月12日(土)	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
	三重東クリニック(三重町)	0974-22-6333
11月13日(日)	竹田こども診療所	0974-63-3838
	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
11月19日(土)	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
	三重東クリニック(三重町)	0974-22-6333
11月20日(日)	竹田こども診療所	0974-63-3838
	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
11月23日(木)	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
11月26日(土)	三重東クリニック(三重町)	0974-22-6333
	竹田こども診療所	0974-63-3838
11月27日(日)	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121
12月3日(土)	みやわき小児科(三重町)	0974-24-0230
	三重東クリニック(三重町)	0974-22-6333
12月4日(日)	竹田こども診療所	0974-63-3838
	豊後大野市民病院(緒方町)	0974-42-3121

受付時間 8:30～11:30(こども診療所は9:00～11:30)
診療時間 9:00～12:00(三重東クリニックは8:30～12:00)
※土曜日については、上記以外にも診療を行っているところがあります。
○豊後大野市民病院 <http://ogatahp.ddo.jp/>
○みやわき小児科 <http://www.miyawaki-kodomo.com/>
○三重東クリニック <http://www.sekiaikai.jp/index.html>
○竹田市立こども診療所 <http://www.city.taketa.oita.jp/>
○大分県豊肥保健所 (☎0974-22-0162)

歯科休日当番医院

当番日	医療機関	電話番号
11月3日(木)	高山歯科医院(竹田)	0974-63-2561
11月6日(日)	長湯ごとう歯科(長湯)	0974-75-3001
11月13日(日)	竹下歯科医院(竹田)	0974-62-2662
11月20日(日)	竹田市荻歯科診療所(荻)	0974-68-3263
11月23日(木)	歯科筑紫医院(久住)	0974-76-0024
11月27日(日)	ふじさわ歯科医院(竹田)	0974-64-1118

※診療時間を確認のうえ、受診してください。

○大分県歯科医師会 ☎097-545-3151

<http://www.oita-dental-a.or.jp/>

受診時の注意 当番院は、やむを得ず変更になる場合があります。あらかじめ当番院または竹田市消防署(☎63-0119)にお電話で確認されるようお願いいたします。また、院外薬局が休みの場合は、あらかじめ用意されて約束処方となることがありますので、ご了承ください。



たけたケーブルテレビ

竹田の話題がまるごと観られるのはTCTだけ!!

たけた市民チャンネル11月特番情報

◇第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール
10月15日・16日に開催された、「第65回瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクール」の模様をお届けします。
全国の若き声楽家のみなさんによるすばらしい歌声をお聞きください。

【放送日】 11月13日、20日、27日、12月4日
日曜日 14:00～

◇第63回瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭

11月1日(火)に開催されました、第63回瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭の模様を、午前の部、午後の部に分けて、お届けします。頑張る子ども達の姿をぜひご覧ください。

【放送日】
(午前の部) 11月12日、19日、26日、12月3日
土曜日 19:00～
(午後の部) 11月13日、20日、27日、12月4日
日曜日 19:00～

◇大河ドラマ「篤姫」(毎週月曜更新)

NHKで、2008年1月6日から12月14日まで放送された、大河ドラマ「篤姫」をお届けします。

薩摩藩島津家の分家の娘から徳川13代将軍・家定の御台所となり、江戸城無血開城に大きな役割を果たした篤姫の波乱万丈の生涯をお見逃しなく。[全50回]

【放送日】(月)8:00～(火)15:00～(水)17:00～
(木)20:00～(金)19:00～(土)23:00～(日)12:00～

- ・第12回「さらば桜島」(11/7～13)
- ・第13回「江戸の母君」(11/14～20)
- ・第14回「父の願い」(11/21～27)
- ・第15回「姫、出陣」(11/28～12/4)

※都合により番組内容が一部変更する場合があります。

●お問い合わせ 竹田市ケーブルネットワークセンター
☎76-1415